

売春リアル

B A I S Y U N - R E A L



『運命』とかそういうフレイズを信じる程
子供じゃないけど、それは間違い無く運命だった。

私の視線の先にはショーウィンド。

無表情なマネキンが、
ピンク色のパーカーを羽織っていた。



可愛い
……欲しい

でも私は、お金を持っていない。
だから私は、バイトをすることにした。



人気の少ない公園へと移動する。
携帯を取り出し、テレクラに電話をかけた。
変態・説教親父・無言・変態・貧乏を経て、
ようやく6人目に、日本語の通じる相手と繋がる。

……サボ希望、
なんですけど

単刀直入にそう告げると、
被せ気味に相手は、

い、いくら？

ホ別、手コキのみ。
フェラ、本番無しで、
1万5千円

ふえ、フェラも、無いの？
だったら……いい、1万円



↑ちっ、
値切んなよ

しかし1万円あれば、あのパーカーは買える。
ならばここが落としどころだ。

……分かりました。
1万円で

見知らぬ男と、
待ち合わせ場所を決める。

け、携帯の番号……
教えておいてよ

大丈夫。
時間と場所さえ間違えなければ、
ちゃんと会えます

見知らぬ男に番号を教える程、
私は馬鹿じゃない。



待ち合わせ場所に移動する。

テレクラは、出会いの手段としては、相当に古いと思う。
私も普段は、掲示板やSNSを利用している。

でも今すぐにお金が必要な時には、テレクラが便利だ。
直接喋るから、話が早い。

上手く行けば、テレクラに電話をかけてから
2〜3時間程で、お小遣いを得ることが出来る。

キミ、
な、ナユちゃん？

声をかけられる。
振り返るとそこにいたのは、



でっぷりと太った、色白い男だった。

(これは……
しくったかも……)

さすがにキモ過ぎる。

人違いですと答える選択肢が頭の大部分を支配するが、
でもそうしたら、またイチから
テレクラをやり直さなきゃいけない。

テレクラのアドバンテージである即時性が薄れる。
私は今、お金が欲しいのだ。

(手コキだけなら、
なんとか……)

結局私は、男について行くことにした。

男はなんの躊躇いもなく、一番安いラブホテルに入り、一番安い部屋を選択する。ベッドしかないような、酷い部屋だ。

男はシャワーも浴びずに服を脱ぎだす。たるんだお腹にはやはりびっしりと汗が付着しており、私はゾッとしてしまう。

男はベッドの上で、仰向けになっていた。

早く、頼むよ

その前に、
お金を下さい

念のために、
お金を先払いしてもらったことにした。



——にゆるり。
男のペニスを握ると、
いきなり先端から透明な液体が溢れる。

(きも……っ)

涎みたいになつぷりと溢れたそれが、
私の指に絡まってくる。

花を摘もうとしたところを誤って、
芋虫を握りつぶしてしまったような、
どうしようもない嫌悪感に襲われてしまう。

(とにかく……
早く済ませてしまおう……)

にちゃ
にちゃ

びんっ
びんっ

右手を動かす。
にちよりと嫌な音が鳴り、

(Faint red stamp)

にすち
なすち

ん、おほか

男が不気味に喘ぐ。

あ、ああ……あひ、
はひい……ひぶ、ぶくら

男の人の喘ぎ声は嫌いじゃない。
でもこいつの声は、気持ち悪すぎる。
まるで豚だ。

（早くイツちやえ……）

私はゴシゴシと乱暴に、
男のそれを扱いた。^{しこ}

ねえ……やつぱりキミも
ちよつとは、ぬ、脱いで

！っ

ぎゅぎゅ……
ぎゅ……

男が左手を太股に伸ばす。

力一杯の手コキを続けているせいで、
男の手を払いのけるのもうざったい。

(とにかく早く……
イカせてしまおう……)

無視を決め込んでいると、
男は調子に乗ってくる。







びゅる、びゅくつ！
——どくんっ——

へ……うわっ！
あ……っ

突然、男のモノが弾けた。
赤黒い亀頭から、
妙に鮮やかな白濁が溢れる。

顔を背ける余裕も無い。
白い粘体が、過剰な熱が、
臭気が、私に向かってくる。

ちょ、ちょっと……
や、や、や……っ

うわ、あ、や……っ、あ、
あ……っ、うわ、やあッ！

んんんん
んんんん

んんんん
んんんん

んんんん
んんんん

にちか
どろっ

やッ

うッ



風呂場に行き、髪に付着した精液を洗い流す。

誤ってお湯をかけてしまい、精液が固まってしまった。
固まった精液は髪に絡みついたまま、臭気を放ち続ける。

もう……最悪？
最悪最悪最悪——っ！



安っぽいアメニティのコームで
何度も髪を梳かして、
ようやく髪に絡んだ精液を剥ぎ取る。

(ああ、
テレクラは危ないな……)

即時性が高い反面、
相手を見極める時間も無い。

(よっぽどのが無い限り、
テレクラを使うのは止めよう)

男が風呂に入った隙に、
私は逃げるようにラブホテルを後にした。
ショッピングモールに向い、
パーカーを購入する。

本懐は無事に達することが出来た。

ならまあ
……いいか



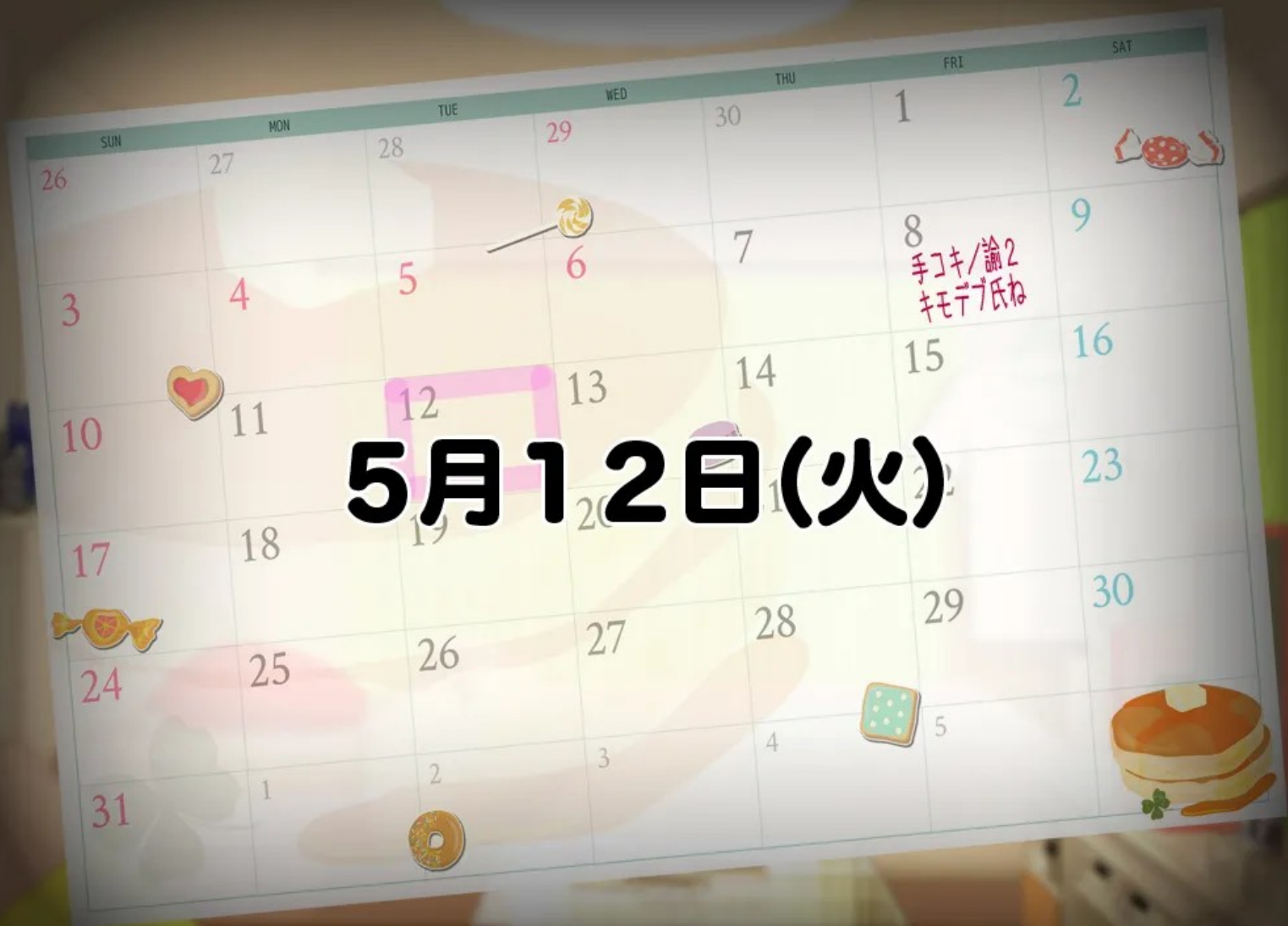
私は早速、購入したパーカーに袖を通す。
ふわりとした柔らかい素地。
パーカーには、ネコ耳がついていた。

にゃお

ネコになったつもりでそう鳴いてみると、
心が少し、晴れた気がした。



5月12日(火)



下校途中の電車内でスマホを眺めていると、以前書き込んでいた掲示板に、レスがついているのに気がついた。

『諭吉2ホ別ゴ有』の条件で書き込んでいたやつだ。

恐ろしく暇だったときに、手慰みで登録したサイトだったので、ちよつと条件が安すぎたかもしれない。

しかしせっかくレスがついたのだ。
返信ぐらいはしてみよう。



その後先方からも直ぐにレスが来た。
とんとん拍子に話が進み、
『今日会おう』ということになる。
ちよつと急すぎるかとも思わないでもないが、

(でも今日も暇だし、
まあいいか、別に)





待ち合わせ場所にやってきたのは、
清潔感のあるサラリーマンだった。

ありがとう、
来てくれて嬉しいよ

男は爽やかに、にこりと笑う。

（うん、
まあこれなら……）

ホテルの部屋は
もう取ってるから

そう言って男が案内したのは、

立派なシティホテルの一室だった。

おお……

思わず嘆息が漏れる。
先日の安いラブホテルとは大違いだ。

シャワー、
先にもらつていいかな

自発的にシャワーも浴びてくれる。



男に続いて私もシャワーを浴びる。

シャワーを浴びても、
制服は着たままで頼むよ

浴室の外から、
そう声をかけられる。

(若干、
ロリコンの気はあるのか……)

しかしその欠点が気にならない程、
男は紳士的だった。



お金、先に
渡しておくね

シャワールームから出た私に、
約束の2万円を握らせる。

じゃあ、
始めていいかな

はい……

私がベッドの上に乗る、足を大きく広げると、
男は先ず、私のその部分に舌を這わせた。





あ、ん……っ♡
ん、ん……っ♡

男の舌が、私のスリットをなぞる。
ゆっくりと、陰唇を解きほぐしていく。

クンニリングスは嬉しい。
愛されているという気がしてくる。

男の舌がクリトリスを弾くと
じゅわりと、温かい体液が奥から溢れて来た。

あ、あ……♡ ああ♡
あ、あ……♡ ああ♡
ひゃ♡ や、ん……っ♡
ん、ふあ、ふあああ……♡

気持ち良い？

う、うん……もう……
入れて、欲しいかも……
舌じゃなくて……
おじさんの、おチンポを……



男は頷き、立ち上がる。

ゴム、
つけるね

自分でコンドームを
ペニスにはめた。

(良い人だ)

好感度もグングン上昇。

ぞくぞく♡♡

(気持ちの良い
セックスが出来そう)

期待に火照る私の下半身に、

める...





セックスは気持ち良い。
男の人のペニスが、好きだ。

もちろんこないだみたいなの
不潔なペニスは論外だけれど、
概ねにおいて、私はペニスが好きだった。

固くなったそれが、私の身体の中に入
り込んでくる瞬間がたまらない。

僕も
気持ち良いよ

そう言っって男も喘ぐ。
喘ぐ男の顔も嫌いじゃない。

私がそうさせているのだと思うと、
余計にゾクゾクしてしまう。

おじさん、来て。
もつと……気持ち良く
……あれ？

はあ……
ふあああ……

びくッ
びくッ

きゅん

不意に、膣からペニスが抜け落ちた。
見ると男のツレは、柔らかくなっていた。

出ちゃった？

いや、中折れ。途中で
萎えちゃったみたいだ

そう言って男は力なく笑った。

折角キミみたいな可愛い子が
相手をしてくれてるのに、
年はとりたくないな……

寂しそうに肩を落とすサラリーマン。
そんな彼のことを、私は不憫に思った。

(良い人みたいだし
……大丈夫だよ……)

そう思い、私は提案する。

はあ

ぽろぽろ

そわ

ん



生なら……どうです？
コンドームを外して……
最後、外に出してくれるのなら、
生で入れても良いですよ

ううん……

はい……

……じゃあ

んっ♡

ふっ

はー♡
はー♡

くほっ
うずうずっ

ふー♡
あふ♡

ぶるッ

男がペニスから、
コンドームを外した。

はあ、

はあはあ……♡

ぎゅっ♡
ぎゅっ♡

愛液でベチャベチャになったゴムを、
私の太股の上に置く。

(冷た——っ)

剥き出しのペニスを、
膣口に近づけてくる。

あ……
あ……
あ、あ……

現金なもので、
男のペニスは少し固くなっている様子。
クニニリングスと先ほどまでの挿入で、
すっかり解されていた私の膣は、
半勃ちのペニスを、優しく飲み込んでいった。



ふあ、あ……っ♡
ああ、あああああ……っ

男のペニスが、私の中で
みるみる固さを取り戻して行く。

ドクンドクンと波打ち、血液を循環させ、
その脈動は次第に力強くなっていった。

ああ……
生は良いなあ

男がそう漏らす。ぞくぞく♡♡♡
私も、同じことを思っていた。

んっ
(生のおチンポ……
気持ち良い……)

ぞく♡
ぞく♡

この最上の快楽を享受出来るのも、
相手が清潔感のある、素敵なおじ様だから。
このあいだの白豚だとうはいかない。

ズパッ
ヂュプウ!



僕のおチンポ、
気持ち良いかな？

うん……うんっ！
いいよあつ♡
おじさんのおチンポ、
気持ち良い……っ♡

どうなってるか、言ってみて？
ナユちゃんのおマンコ、どうなってる？

ズボズボ、されてるう……。
おじさんの……おチンポで、
あ、あ、あ……っ♡♡♡

おマンコズボズボサネて……っ
や、あ、くらっ、んらっ♡
おマンコ、気持ち良い……っ♡

おチンポ♡♡♡
おじさんのおチンポ、
しゃべりな……っ♡♡♡

すっかり回らなくなった舌で、
私は恥ずかしい言葉を
喋らされてしまっていた。

ぬるぬる
ずぶずぶ
ちゅー

私の言葉に反応してか、男のモノが嬉しそうに震えた。

イキそう……

外、だよな？

……うん。あ、でも……
服は、汚さないでね……

制服は汚れたら困るし、買ったばかりのパーカーも汚したくは無い。

じゃあ口に、出すね

ॐ

ぞわ

口、開けて……

あ、や、ちよ……、ちよつと……つ
口、口ってつ、ふや、あ、あ……！
おお、おおおお おおお

…に於

A pink heart and stylized Japanese text are overlaid on the person's back. The text includes "ハハハ" (hahaha) and "ニハハ" (nihaha), which are playful or teasing expressions.











口内が発酵臭に満たされる。

(これ……私の味い……)

(やめて、汚い……っ)

自分の体液を味わわれるぐらい、嫌なことは無い。

拒絶は言葉にならない。当然だ。口内にペニスを含まされているのだから。

男は無遠慮に、ペニスを擦りつけてきた。私の舌に、頬の裏に、上あごに、喉奥に。

んぐっ！んぐっ！んぐっ！んぐっ！んぐっ！

んぐっ……んぐっ……んぐっ……んぐっ……んぐっ……

びゅるっ！びゅるっ！びゅくっ！

んぐっ……んぐっ……んぐっ……

んぐっ……んぐっ……

んぐっ……んぐっ……んぐっ……



もっと吸って。
尿道の精液も、吸い出して

(巫山戯んなーっ)

そう思うも、

ふーッ
ふーッ

私は何故か、従ってしまった。
恐怖がそうさせるのか。いやでも別に
脅されている訳では無いのに……

んぐ、んろーっ、んろーっ、
んろろろろろーっ！

んあ、ちやろろ……っ
んじや、じやろろ……
んふ、んふ、ごほあ……

ど
いいよ……。
気持ち良いよ。
良い子だね

びくろくろ！
びくろくろ！
びくろくろ！

ふあッ!!
あ、はあ……っ
はあ、はあ……っ

口内を散々弄んで、ようやくペニスが離れた。
喉の奥が痛い。少し切れているのかもしれない。

あ、あ、あ、あ、あ……っ
あ、あ、あ、あ、あ……っ
あ、あ、あ、あ、あ……っ

は……

はああ……

は……
は……

(最悪……)

途中までは、
最高に気持ち良かったのに……

ごめんね、
あんまり気持ち良くて、つい

私は男を睨もうとしたのだが、
その私に向かって、
男が何かを投げて寄越した。

1万円札だ。

追加のお小遣い。
やり過ぎちゃったお詫び。
本当にごめんね

あ……
あ、いえ……

ふー……
あふ……

制服もパーカーも汚れてないよ。大丈夫。
でもお風呂には入った方がいいよね。
待ってて、お湯を入れてくるから

そう言っつて男は、
風呂場に消えた。

やっぱり……
良い人なのかも……

先ほどのイラマチオも、興奮しすぎて
我を見失っただけなのかもしれない。



だったらまあ……
しょうがないか……

ならばむしろそれは、
嬉しいことだ。

私でいっぱい、
興奮してくれたんだよね

はー！……

はあああ……

んーっ

そう思うと、
この苦いザーメンの味も、
愛しく感じてしまう。

私は口元に付着した精液を、
改めて嚥下した。

(……美味しいかも)

そう、思ってしまった。

はー！……



お風呂にはゆつくり浸かっていただけ、
男が闖入してくることも無かった。

やっぱり良い人なんだと、私は認識を改める。

良かったら、
ナユちゃんの携帯番号を
教えて欲しいんだけど

別れ際に、男にそう頼まれる。
少し迷ってから私は、

——いいですよ

と答えた。
この人になら、教えても良いと思った。

5月15日(金)



街を歩いていると、
携帯にフルセラショップから電話がかかってきた。

どうしてもお金が必要な時、
私はフルセラショップで使用済みのパンツを売っていた。
パンツを売るのは、変態っぽいので
あまり好きではないのだけれど、
それでも背に腹は代えられない時がある。

電話の用件は、『今から店に来れないか』というもの。

他に予定も無いので、
私はその呼び出しに応じることにした。



毎度。助かったわ
来てくれて

胡散臭い関西弁を操る店長が
私を出迎える。

なんですか、
用事って

ちよいとな。
中見て貰ってエエかな

そう言っで店長は、
レジの奥にある扉を指した。

倉庫？

いや、便所。正確にはユニットバスやね。
この店、マンションを改造してるから、
ユニットバスがついてんねん

そのユニットバスが私に、
一体何の用があるというのだろうか。
言われるままに扉を開くと、

……はい？

何か奇妙なモノが転がっていた。

本来ユニットバスには付属していない筈の、シャワーでも便器でも無い何か。

それは、拘束具を身にまとった全裸の中年だった。

……おえ

軽い嘔吐感すら覚える、醜い肉の塊。

……何なんですか、あれ

常連の上客。

どうしても女子校生のおしっこを
直に飲みたい言うて、聞かんのよ。
飲むまで帰らん言うて、
それでこの通り、ユニットバスに籠城や



それで……
私にどうしろと？

ナユちゃん、
おしっこ出えへん？

いい嫌ですよそんな、
おしっこなんて――

染み付きのパンツを売るのだって、
出来ればやりたくないぐらいなのだ。
排泄物を他人に――しかもあんな
醜い肉塊に飲まれるだなんて、
考えるだけで嫌だ。鳥肌が立ってしまう。

電話して来てくれたん
ナユちゃんだけやねん。
他に頼れる子がおらんねん、
なあ、人助けやと思うて

人助けって……そんな無茶な。
殴って外に捨てましょうよ

そんなん出来るワケあらへん。
常連さんやねんで

わー私だって、
おしっこなんて出来るわけ……

はあ...
はああ...

♡♡♡♡♡

金なら
私に!

♡♡♡♡♡



実を言うと、おしっこには行きたかった。
ブルセラショップの用事はすぐ済むと思っていたので、
それからゆっくりとカフェにでも入って、
用を足そうと思っていたのだけれど……

ワシの顔にまたがって……
便器だと思って、
おしっこ……おしっこを……

男は——目隠しをしていた。
これなら……おしっここの瞬間を
見られることはない。

ぞろぞろ

3万円

男が叫ぶ。
さすがに「金の問題じゃない」と
言い切れない額だ。

ふふふ





ふーっ、ふーっ、ふーっ...
ああ...女の子の匂いがする...
若い子だね。ちゃんと女子校生だ...
ありがとう、ありがとう、ありがとぅ...

ん、ん... っ

（いやらしく...）
日和ってオヤジの顔に触れても嫌だし

結局私は、3万円を受け取ってしまう。
変態中年のいる浴室に入り、男の顔をまたいだ。
我ながら、もの凄い格好だ。
ちよっと大胆過ぎたかもしれない。

鼻栓もさせておくべきだった。
とにかく、早く終わらせよう...
私は下腹部に力を入れる。

はな...



うぐ... っ

——ふしやああああああつ！

出た。しかもいきなり大量に。
私の尿が、男の顔に向かって伸びていく。

うわ、あ、
おおああああ……っ

ふわ、あふ、んぐろっ、
んぐろんぐ、ごくん……っ

男が、美味しそうに
喉を鳴らしている事実が、
何故か私の身体を、
熱くさせていった。

美味しい
……ですか？

んぐ、んぐろっ

はあああ……っ
はー……っ

男が首を縦に振る。
風邪でも引いたみたいだな、
フワフワとした感覚を保ったまま、
私は中年の顔に、口に、尿を放ち続けた。

じよぽぽ！

ひちやつ！
じよぽおあ……

そこまで我慢をしていたつもりも無かったのに、私の排泄は、いつまで経っても終わらなかった。

(まだ出る……、
いっぱい、出ちゃう……)

おっ、おっ、
ごっ、ごっ、
ごっ、ごっ、
ごっ、ごっ、

男は幸せそうに、
尿を嚥下し続ける。

(気持ち悪い……)

びしょやな

至極真つ当な感想が浮かび、
しかし一方では、

(おじさん……
すごく興奮してる……)

得体の知れない感情も渦巻いていた。

んあ、

はあ

はふ

ふっ……



はあ...
はあ...

(太股を舐めてキレイにしろとか言ったら...
このおじさん、どうするんだろう...)

そんなことも思ってしまう。

ようやく私に、理性が戻ってきたらしい。
しかし一方では、

(汚い...)

ふあ、はあ、はあ...
はあ、はあ、はあ...
はあ、はあ、はあ...
はあ、はあ、はあ...

始まったときと同じく唐突に、
長い長い放尿は終わった。
男は口元から胸からお腹まで、
ぐちよぐちよにしている。

ふあああ...



「さあ、さあ、さあ」

……美味しかったですか？

最高……

中年が呟く。
恍惚とした様子の声。

こんな美味しいおしっこ、
滅多に無いよ……

果たしてこれは、喜んで良いのだろうか。
とりあえず私は、曖昧に微笑んだ。

ユニットバスの外に出ると、
店長が私を出迎える。

お客さんは？

中で、床にこぼれた
おしっこを舐めてます

一瞬、あの中年オヤジの趣味が分かりかけた様な
気もしたのだけれど、男が突然四つん這いになり、
床を舐め始めた時点で、その理解は消え失せた。

(やっぱり、
おしっこを飲む奴は変態だ)

(まあでも、
3万円か……)

しかも所要時間は10分弱。
これだけ割の良いバイトは、
なかなか無い。

(だからまあ……
良かったんだよね)

そうそう、前から言うてる話については、どない？

前から？
……ああ

私は以前からこの店長に、店で自主製作をしているビデオに出演しないかと誘われていた。

それは前に言った通りです。撮影は嫌。ビデオに出る程、人生捨ててないですから

AV出演には、援交どころでは無いリスクがある。あんなのに出る女は馬鹿だ。

そっか。ナユちゃん可愛いから、売れると思うんやけどなあ



因みに『ナユ』というのは私の——
いわゆるハンドルネーム。
本名は『葉結子』。

掲示板やテレホンクラブでは、
この『ナユ』を名乗るようにしている。
もちろんブルセラショップでもだ。

本名なんて、
晒すもんじゃない

そのぐらいのことは、
ちゃんと分かっているのだ。



5月18日(火)



ショッピングモールで私は、
すごく素敵なキャミソールを見つけしまった。
一緒に展示されているホットパンツも可愛い。

欲しい……

でもキャミソールだけならとにかく、
ボトムも買うとなると、
結構な出費になってしまう。

金曜日に稼いだ3万円は、
週末に全部使ってしまった。

お金って
いくらあっても足りない

とにかく、この出会いは運命だと思う。
よほどのことだ。

だから私は、テレクラを利用することにした。

割り切ったお付き合いの
出来る方を探しています

説教親父・変態・変態・無言・
自称神・説教親父等々を経て、
10人目でようやく、
まともに話を出来る相手と電話が繋がる。

えっと……ホ別手コキのみ、
フェラ・本番無しで、
1万5千円なんですけど……

……1万5千円で、
手コキのみですか？

は、はい……

なら、フェラぐらい
して欲しいのですが……

——わかりました。
それでいいです

ここでこの男に逃げられたら、
もう今日中にキャミソールを
入手することは不可能だ。
だから私はその提案に飛びついた。

待ち合わせにやってきたのは、
30代ぐらいの男だった。

妙にカジュアルな服装をしている。
自営業者だと名乗っていたが、なんだか怪しい感じ。
でも、拒否する時間は無い。

近くのラブホテルで
良いですか？

……はい

男と2人で、
ホテル街に移動する。



——が、こんな日に限って、
ラブホテルがどこも満室だった。

(ああもう、
時間が無いのに……)

ラブホテルは
比較的回転の速い業種ですから、
どこかで気長に待ちましょう

男はそう言うが、私は一刻も早くお金を手に入りたい。
早くしないとショッピングモールが閉まってしまう。
そんな私の目に、あるモノが飛び込んで来た。
公園の、公衆トイレだ。



そのトイレで
……ませんか？

トイレ……ですか？
あまり気乗りしませんねえ。
待てばホテルが空きますよ

男が眉をひそめる。

(うっさいなあ。)

三っちは待ちたくないんだけど

でもほら、ホテル代、払って貰うのも悪いし。
たまにはこういうシチュエーションでするのも、
燃えたりするかもしれませんよ

……なるほど。まあ、
キミがそこまで言うのなら……

男がペロリと舌なめずりをした。
その仕草は私に、ハ虫類を連想させる。
(う……)
早まったかも知れないと思う。
でも時間は無いし、お金は欲しい。

(とにかく、
男の気が変わらないうちに……)

なる程、確かにこういう
シチュエーションも、燃えますね

(白いカスがついてる……)

男が私に、ギンギンに勃起したペニスを
突き付けてきた。見るからに汚れている。

(これを……
舐めるの……?)

やっぱりホテルが空くのを待つべきだった。
遅すぎる後悔。でももう、
1万5千円は受け取ってしまっている。

はぁ
(お金は、
返したくない……)

なら、やるしかない。



はむ、んっ、んぐ、んら
んらうらうらーっ！

凄まじい臭気が鼻に抜ける。
便器を直接舐めたような味が、
口一杯に広がった。

(臭い……っ、臭い臭い臭い……っ
普通……こんな汚いままにしとく……っ)

割り切ったお付合いを狙って
テレクラに来るのなら、
先ず風呂に入るべきだ。

(だからテレクラは嫌い……。
ロクな人間がいないっ)

こんな汚い亀頭に、舌を這わせたたくない。
吸うなんて論外。恥垢を飲み込んでしまう。



汚チンポ相手に
出来ることは限られている。
先端——尿道口を舐めるぐらいだ。

れろ、ちゅる……
ちゅる、ちゅる……

（うう、
先っぽは先っぽで、
しよっぱい……）

これは尿の味だろうか。
先週末の変態中年と、
同族になってしまった様な絶望感に襲われる。

（それでも、
恥垢よりはマシ……）

そう思っていると突然、
男の手が私の後頭部を掴んだ。

カレツ









ふあ、はあ……っ、
ぐえ、げほ、けほっ、
ふあ、ああ、ああ……ッ
ああああああ……

ようやく、ペニスを吐き出すことが出来た。
開いた口はなかなか閉じてくれない。
下顎が、プルプルと震えている。

はあ、はあ……っ、
はひ、ひああ……

吐き出す息は、やはり臭気に塗れていた。
胃液と精液と、恥垢に唾液の混ざった匂い。
最早生ゴミとしか、形容しようの無い。
それが、私の吐息として放たれている。

(最、悪……)

男がニユルニユルのペニスを
額に擦りつけてくる。

私にはもう、
それを跳ね除ける気力も残っていなかった。

もういいや……
顔は後で洗えばいいし……

男は飽きる様子も無く、
いつまでも私の額に、
ペニスを擦りつけていた。

(ああでも髪の毛……
精液がついたら、
なかなか落ちないのに……)



逃げるようにして男と別れ、私はショッピングモールへ戻った。お店はまだ、ギリギリ開いている。キャミソールとホットパンツも、ちゃんと残っていた。

店員を呼び、この2点が欲しい旨を伝えてお金を払う。

欲しかった洋服は、キレイな紙袋に包まれて、私の手の中にやってきた。

……まだ喉の奥はジンジン痛む。息が少し、精液臭いような気もする。

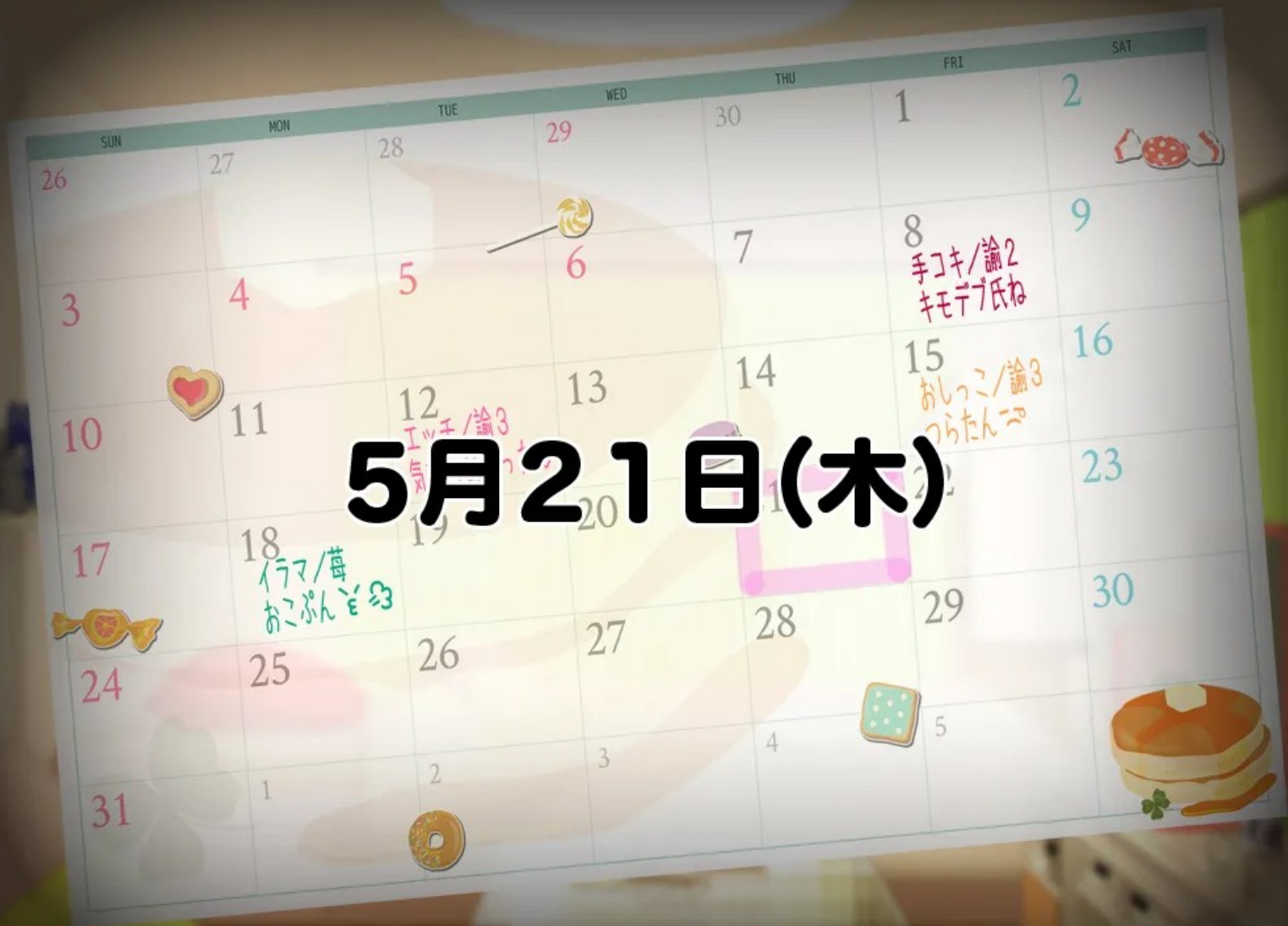
でもまあ、いいか

紙袋の重さに反比例するように、私の心は軽やかになっていく。

次の週末には、早速この服を着て遊びに行こう。そんなことを考えながら、私は帰路についた。



5月21日(木)



先日の喉の痛みがようやく治まってきた頃、
以前掲示板で出会ったサラリーマンから、
電話がかかってきた。サポのお誘いだった。

ナユちゃん？ 今日時間ある？
良かったら、会えないかな

（このおじさんは、セックスが上手かったし、
それに気前も、良かったよね……）

時間もある。
なら——断る理由は無かった。
先日と同じシティーホテルで、
サラリーマンと待ち合わせる。



やあ、
来てくれて嬉しいよ

こちらこそ、
誘ってもらってありがとうございます

このあいだと同じ様に、
先ずは男性がシャワーを浴びた。
続いて私も、シャワーを浴びる。

制服は、着ていた方が
いいですか？

答えはYES。
私は制服を着直して、
改めて男と向かい合った。



2万円でいいかな

はい

男が私にお金を手渡す。
私から何も言わなくても、
先払いをしてくれるのが嬉しい。

（こういう人ばっかりだと
良いんだけどな）

じゃあ、
始めようか

男の言葉に私は頷き、
ベッドの上で横になった。





あ、や……
生……っ

男はいきなり、
生で挿入してきた。

うん？

いや……
う……っ

も……ぞ

あ……ん……
♡♡♡♡♡

す……ず……
♡♡♡♡♡

ゴムは付けて欲しい。

（でもこの間は、
それで中折れしちゃったし。
まあ、いいか。
このおじさんなら……）



ひゃ♡や、あーっ♡
あ……っ♡ あ♡♡ あ、あっ！♡
ふあ、あ、ああ、あああああ——っ！

男が腰を揺らすと、
私はいきなり嬌声を上げてしまう。
全身の汗腺から、フワリと汗が噴き出す。

奥、当たってるの分かる？

はい……っ
分かる、分かりま……
ひゃんっ、やつ、やあ……っ

奥に……
何が当たってる？

おチンポ……♡♡
おじさんの、おチンポが、当たってる

生なのね

うん……生チンポなのに、奥に当たうちやってるっ
子宮の、入り口に……チンポ、おチンポが……っ♡
あ♡や♡や♡……っ♡ ああ、あああああ——っ！

ずんずん♡

あはは♡
ははは♡
ははは♡

ずんずん♡

男は執拗に、私を昂ぶらせようとしてくる。
んん

汗が増す。でも揮発が追いつかない。
身体が、どんどん熱くなっていく。

ああ、なんて素敵なセックス。
一回り以上も年の離れた中年男性に、
身体を良い様に弄ばれる。

(この感じ……
大好き……)

俺のチンポ、
気持ち良い？

うん……良い。
気持ち良いっ♡♡♡
おじさんのおチンポ、
気持ち良い……っ♡♡

もっと言っ……
チンポ気持ち良いっ……
もっと……

ズパッ
ヂュプウ！
ぐわウツ！

おじさんの……おチンポ……
や♡♡♡ひゃっ♡♡♡
気持ち……良い……です……っ♡♡♡
はあ……



そういえば前回のサポでも、
このサラリーマンは私に、
恥ずかしい言葉をいっぱい喋らせていたっけ。

少し変態っぽいけど、
それでも飲尿フェチに比べれば全然マシ。

菜結子ちゃんは、
おチンポが大好きなんだね

うん……っ
好き……っ

うん……っ
好き……っ

中年チンポ、
気持ち良い？

うん、うん……っ
おじさんの中年チンポ、
最高だよ……っ
気持ち、良い……っ

菜結子ちゃんは
中年のチンポが好きなんだ

うん、
好き……っ

あふ……っ
んあ……っ

はあ……っ
はあ……っ







中に出しても、
良いよね？

しまった。
サービス過剰だったか。

いや、
中は……

良いよね

だ……
だめ……っ

ぶるるッ
ぶるるッ

どうして？
ザーメン好きなんでしょ？

す、好き……だけど、
でもそれはっ……
や、あ、あ……っ
あっ、あああああ——っ！

や、ダメ……っ、
中は、本当に……
ダメだから……っ

ダメ……？
もう1万円、
お小遣いを上げるよ

——っ！
で、でも……

ぞくぞく……

じゃあ2万円

ズパッ
ヂュプウ！

ぱんっ
ぱんっ



に……

追加で2万円。
だったら良いよね

私が答える前に、男が胸の上に2万円を置いた。
冷たいお札の感触に、ソワリとしてしまう。

良いよね

……出すよ

でも……
ちよつと、やつ！
中、中……
出すよ……

出すからね……

や……っ、や、や、やつ！
いや、だめっ、だめえ……っ！
ダメ……だからっ、や、やあつ！

抜いて……抜いて……っ！
あ、あ、あ……っ！
いや、いや、いやっ！
いやあ、あ、あ、あ……っ！
っ！

ん……

ひびき
はあ



ひやふやふや……っ
ああああああ……っ

——びゆく、びゆるっ！ びゆるううっ！
男のペニスが脈動する。
同時に下腹部が、ぶわあと熱くなった。

(中……出されてるっ、
中出しされてる……)

ドクンドクンとペニスが震え、
その度に熱が広がっていく。

嫌あ……っ、やだあつ
抜いて、抜いてよお……

でも凄く気持ち良いよ。
ナユちゃんも、良いでしょ？

良く、ない……っ

嘘お。だつておマンコ
ヒクヒクしてるよ？
精液、もつと飲みたいって
お強請りしてるみたい

そ、それは……それは……っ
やっ、あ、あ、あ……っ
ああああああ……

びくっ
びくっ

びくっ！
びくっ！
びくっ！

ドクッ！
ビュッ！
どっぱら



最後の一滴まで、
ちゃんと飲ませてあげるからね

だめ……、だめえ……っ、
中出ししながら、
スポスポしないでえっ！

男が腰を揺らす。
精液で満ちた膣内を
図々しく攪拌していく。

奥……叩いたらダメえ……っ、
子宮、開いちゃうっ、
精液奥に入って来ちゃうよあつ

赤ちゃん出来ちゃうから……っ
ダメだって、おチンポ止めて！
抜いて、抜いてえ……っ、
や、あ、あっ！ ああっ！
あああああ……っ！

びゅるッ
びびわう！
びちゃ！

ずぶずぶ
ずぶずぶ



はあ... はあ...

はあ

熱はシートにしみ込んでいき、
急速に冷めた。
火照った私のお尻を冷やす。

ひく、ふあつ、
や、やああ...っ

散々かき回して、
男がペニスを引き抜く。
下腹部に注がれた熱が、
お尻の方に垂れ落ちていく。

はあ...

あああああ...っ
あああ、あああああ...

ダメって...
言ったのに...

ごめんごめん、
あんまり気持ち良いから、つい

—どうやらこの男には、
暴走癖があるらしい。
次からはもっと気をつけないと。

ドロ... ぬる...

ぐちよああ...



（ああもう、安全日じゃないのに……
ピル、飲まなきゃ。
まだストック、あったかな……）

（もし無かったら最悪だし……
買っておいの方が良いか）

もちろん、普通の薬局で
買うことは出来ない。
入手先の心当たりはあるが、
手順が少しややこしい。

ふー……
あふ……

でも
その代りにさ

めんどくさいなあ、
もう……

男が胸の上の2万円を、
ポンと叩いた。

はあ……
はあ……
はあ……

はー……ッ
はあああ……ッ



あ……

ん……

ふわぁ……

そうだ。当初の2万円とあわせて4万円と破格の稼ぎではある。

(セックス自体は気持ち良かったし、ピル代を差し引いても、お釣りはくるか……)

はふ……

はふ……

あふ……

本当にごめんね。しっかりと中を掻き出した方がよいよ

私が呆けている内に、男は湯船にお湯を張ってくれていた。

……はい

んっ



(やっぱり悪い人じゃ、
無いんだよね……)

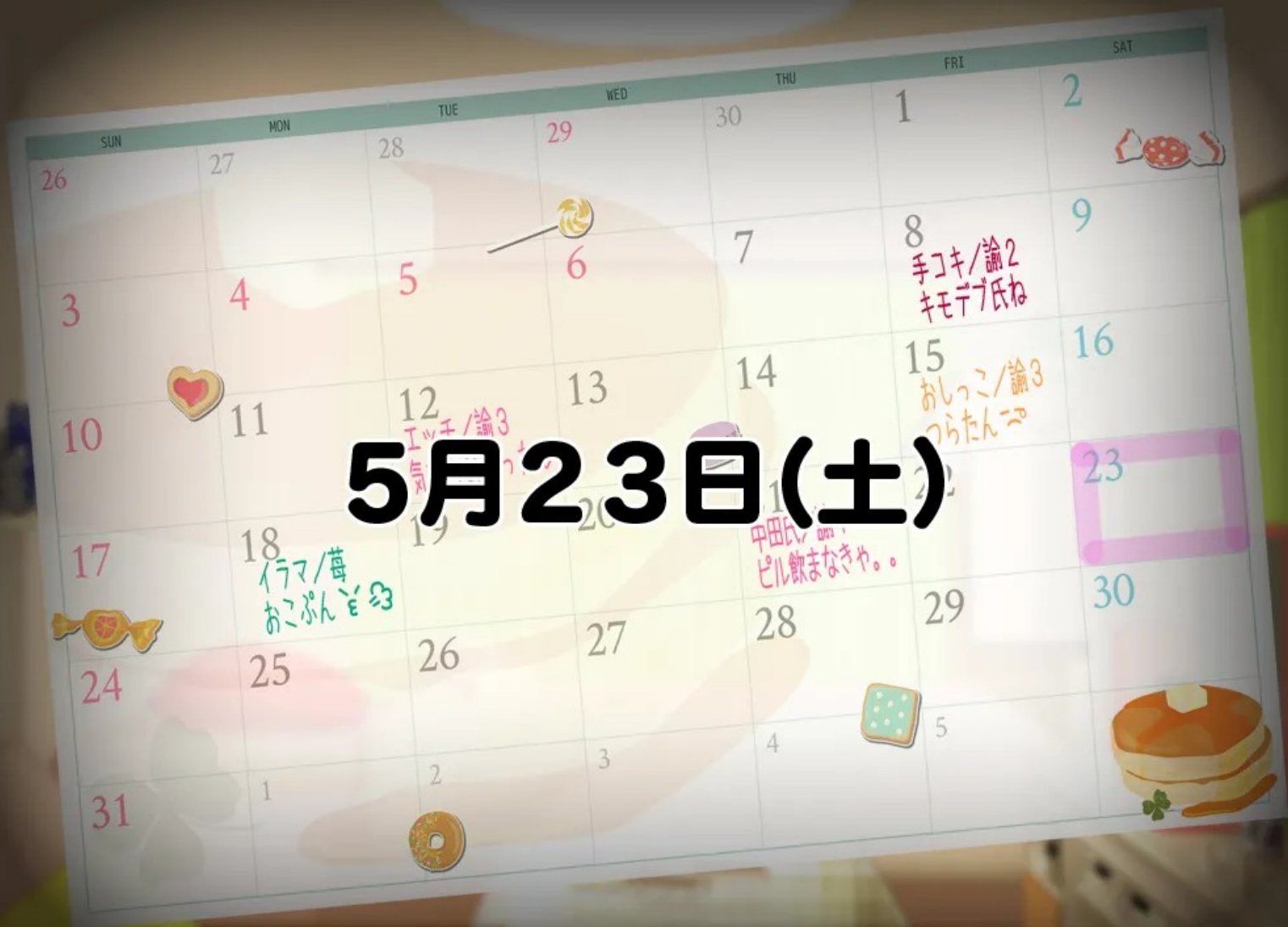
ならまあ
……いいか。

(……今日も
良い一日だった)

男に見送られて、
風呂場に移動する。

ホテルの外に出る頃には、
私はそう考えるようになっていた。

5月23日(土)





ツイてないな……

土曜日だと思って遊んでいたら、終電を逃してしまった。
タクシーを拾えば帰れなくもないが、深夜料金だし。
あまり無駄遣いはしたくない。

しょうがない。
どこかで始発まで時間を潰そう

24時間営業のハンバーガーチェーンを見つけた。
ここで朝まで粘ることにする。

店でボーッとしていると、大学生風の2人組が声をかけてきた。
2人は**右田**に**左川**と名乗る。**右田**の方は、少し好みだった。
話しているうちに、案の定というかなんというか、
ラブホテルに誘われる。

(ベッドで眠れるのなら、
まあ悪く無いかな……)

しかし2人とラブホに入るということは、
2人を相手にしなければいけないことになる。

(3P……)

さすがにそれは、ちょっとヤバそう。

(でもこのまま、ここにいるのもなあ。
足だって浮腫んじやうし……)



私の葛藤を見透かした様に、
右田が提案する。

多少だったら、
お金も出すよ

(おー)

左川、お前、
いくら出せる？

俺？
俺はえっと
……1万

なら僕も1万出す。
2万円と、ホテル代。
これでどう？

右田氏はなかなか交渉上手だった。
こういうクレバーな人は好き。

……いいですよ

私はそう答える。
右田さんの魅力と2万円に、
流された格好になった。



や、ひゃ……っ♡
あ……っ、んっ……っ

ホテルに入るなり、
2人は私の身体に群がってきた。
左川が私の唇に舌を伸ばす。

はむ……、んっ
ちゅ、ちゅる……っ

私もそれに応じる。

左川の口は、少しアルコール臭かった。
きつと酒を飲んでいたのだろう。

(どうせなら、
右田さんとキスしたいな……)

は……っ♡
はあああ……♡

あ……♡

あ……♡

はー♡

あ、や……っ

あ、あつ、あお
おお、おお……っ

[illegible]

こっちも
ニユルニユルじゃん



思わず下半身に力が入る。

お、ビックってなった。
気持ち良い？

い、今は……
びっくりした、だけ……

またまたあ。
良いんしょ？

左川が強引に指を動かしてくる。
テクも何もなく無茶苦茶だ。

あ、や、あーっ、
う、う、うぐ、うぐっ！
ちゅっ……っ、
や、ダメ、だったらあ……っ！

ヒビ。
良い反応じゃん

やだ！……っ、だめっ、
だめだったら……んっ！

ーゴン



~~~~~

頭を振ったら、それが左川に当たった。  
左川に頭突きを喰らわせるような  
格好になって、ようやく指が止まる。

……なに？

(あ、やば……)

左川が、ギロリと私を睨んできた。  
相手を怒らせるのは怖い。  
男だし、ここは密室なわけだし。

びちゃ  
れろかり

すぽん……

いや、その……  
服、汚れたら、困るから  
……あんまり濡れたら、  
帰れなくなっちゃう

いいじゃん。  
朝までまだ時間はあんだし

で、でも……私の方はほら、  
もう、大丈夫ですから

ぞく  
ぞく



そう言って私は、  
下着ごとホットパンツを脱いだ。

お兄さん達ももう、  
大きくなってるみたいだし……  
いいですよ、入れても……

左川を怒らせたくないというのも  
勿論あるが、それ以上に、  
汚い指で乱暴にかき回されたくない、  
という意識も働いていた。

お……  
俺から入れて、良い？

左川が一転、  
嬉々とした声を発する。  
馬鹿は扱いやすくて良い。

じゃあ俺のは……  
口でしてくれる？

……はい

はあ

おっ  
ちゅっ  
ちゅっ

くぱっ  
ちゅっ

んっ

ふっ







気持ち切り替える様に、  
唇で右田のペニスを扱く。  
亀頭に舌を這わせる。

右田のペニスは、美味しかった。  
シャワーを浴びていないので、  
多少しょっぱくはあったけれど、  
嫌な味や匂いはしないし、  
それに亀頭まで、カチカチ。

（どうせなら、  
こっちを入れて欲しかったな  
……そしたらもっと、  
気持ち良くなれるのに）

右田の口から、  
喘ぎ声が漏れた。

お、うあ……

（あ……、  
可愛い……）

んーんー……っ、んーん  
んー……はあ、れろ……っ、  
ちゅる、ちゅる、ちゅ、ちゅら

プウ！  
ちゅぽん！  
ズパッ







出すから

ぎく...

え...  
や、ちょ、ちよつと待って...  
ゴム...付けて無いですよね?

当たり前じゃん

じゃ、じゃあ...  
出すのは、外で...

でも...  
このまま出して良いって  
言っただじゃん

そ、それは...口の話で...  
そっちはダメ...っ、ダメ...  
あ、や、やっ、中に出されたら、  
赤ちゃん、出来ちゃうから

あ、いいそれ。  
超萌える

ぱんっ  
ぱんっ

だめ、だめ...っ、  
だめ、だめ...っ、  
いや、いや、いやっ!  
いやあああああ...っ!

びくくッ

おっ  
ぢゅぷら!

















ねえ……  
全部飲めた？

は……はい

私は結局、右田の精液を  
殆ど嚥下していた。

よし、じゃあ  
口はキレイだな  
交代しようぜ

ふー♡  
あふ♡

その前に、  
お前は精液を  
掻き出せよ

あ、そうだ。  
じゃあ……  
こっち向いて

ふえ……？

はあ♡  
うん♡♡

ふ♡  
はあ♡  
はあ♡……♡

ぷるっ

左川が汚い左手を、再び私の膣に差し込んだ。爪の伸びた指で、中出しされたばかりの膣内をかき回す。

ふや、あ……っ！  
あ、あ……っ！

ああ……っ、ああ、  
ああ、ああ……っ！  
ふ、ふや、ふや……  
やあ、やあああ……っ！

だめ……っ！いや、いやっ、  
あ、あ、ああっ！  
ふや、ひや、ああああ……っ！

きゅん♡  
きゅん♡

きゅん♡  
きゅん♡

きゅん♡  
きゅん♡

きゅん♡  
きゅん♡

私の身体は、  
気持ち程に指を拒絶しなかった。  
下半身が震える。  
膣内が、締まっていくのが分かる。

はあ、  
や……っ、だめ、だめ……  
だめ、だめえええ……っ

きゅん♡  
きゅん♡



締まる膣壁と指に押し出されて、  
精液が溢れてきた。  
攪拌され、細かく泡立ったそれが  
私のアナルを覆う。

>  
 ㄅ  
 ㄅ  
 ㄅ  
 ㄱ  
 ♥

あ、あ……っ、ひぐ、  
うっ、ん——っ！

右田がゆつくりと、  
私の乳房を愛撫した。

乳房に触れると、やはり身体は震える。ゴポリと音がして、また肛門を精液が覆った。

すごい出してたんだな、  
お前……

うん。だって  
すげえ良かったから

ふうん……  
楽しみだな

ぐちよッ!  
おまぐらッ!  
ぐちゅ...ッ!  
ニチャッ!  
ぐらッ!



ねえ……僕も最後は、  
中に出して、いいよね？

右田が私に問いかける。

(ああそうか……)  
次は、右田さんの番……)

ようやく、彼と交わることが出来る。  
彼の固いおチンポが、生で、私の中に……

びゅん♡

ざゅん♡

ぐん♡

1 回出されるのも、  
2 回出されるのも同じだ。  
それにピルなら、先日買い足している。  
なら、まあ……

んんん  
ふんふん……

いいですよ……





3Pはハードだった。  
2人は何度も挿入してくるし、  
もう無理だと言っても、  
なかなか寝かせてくれなかった。

でも――  
男の人にがつつかれるのは、嫌いじゃない。

2人から同時に、  
際限なく求められつづける感じは、  
思った以上に心地の良いものだった。  
いっぱい中出しをされてしまったが、  
後でピルを飲めば問題無い。

終電を逃した際の時間潰しとしては、  
悪くない選択だった。

目を覚ますと、2人の姿はなかった。  
服や荷物もない。  
どうやら2人は、先に帰ってしまったらしい。

……私も帰ろう

のろろと起き出し、  
脱ぎ散らかした服を集める。  
鞆から財布を取り出そうとして――

妙に財布が、軽くなっていることに気づいた。  
慌てて財布を開けると、  
中に入っていたはずのお札が無くなっている。  
2人に払ってもらった2万円どころか、  
あらかじめ入っていたお札も、  
きれいに消えてしまっていた。

な……なに？  
どういうこと……っ？

お札入れには代わりに、  
畳んだ紙切れが1枚挟まっていた。  
私は急いでその紙を取り出す。  
震える指で、開いた。



『やっぱ2万はねーわ。  
むしろ頑張った俺らが金貰うべき』

紙にはそう書かれていた。



私は全てを理解した。

盗られたのだ。あの2人組に。

1度支払われた2万円も、  
私をはじめから持っていたお金も。

枕元の電話が鳴り、ラブホテルの店員に、  
チェックアウトの時間が  
迫っていることを告げられる。  
結局私は、風呂に入ることさえ出来なかった。

携帯や定期、身分証の類は無事だった。  
小銭も残っていたので、  
家に帰ることも出来る。

「だったらまあ、  
いいか」

とは、さすがに思えない。

むしろ札だけなら、盗つても通報されはしないと  
見透かされているようで不快だった。

そしてこの絶妙な匙加減は、  
右田の判断によるものだ、私は確信している。

バカ  
左川にはできない。

左川の単独犯ならとにかく、  
右田も積極的に、私を騙したのだ。

「ちよつと良いなつて、  
思ってたのに……」

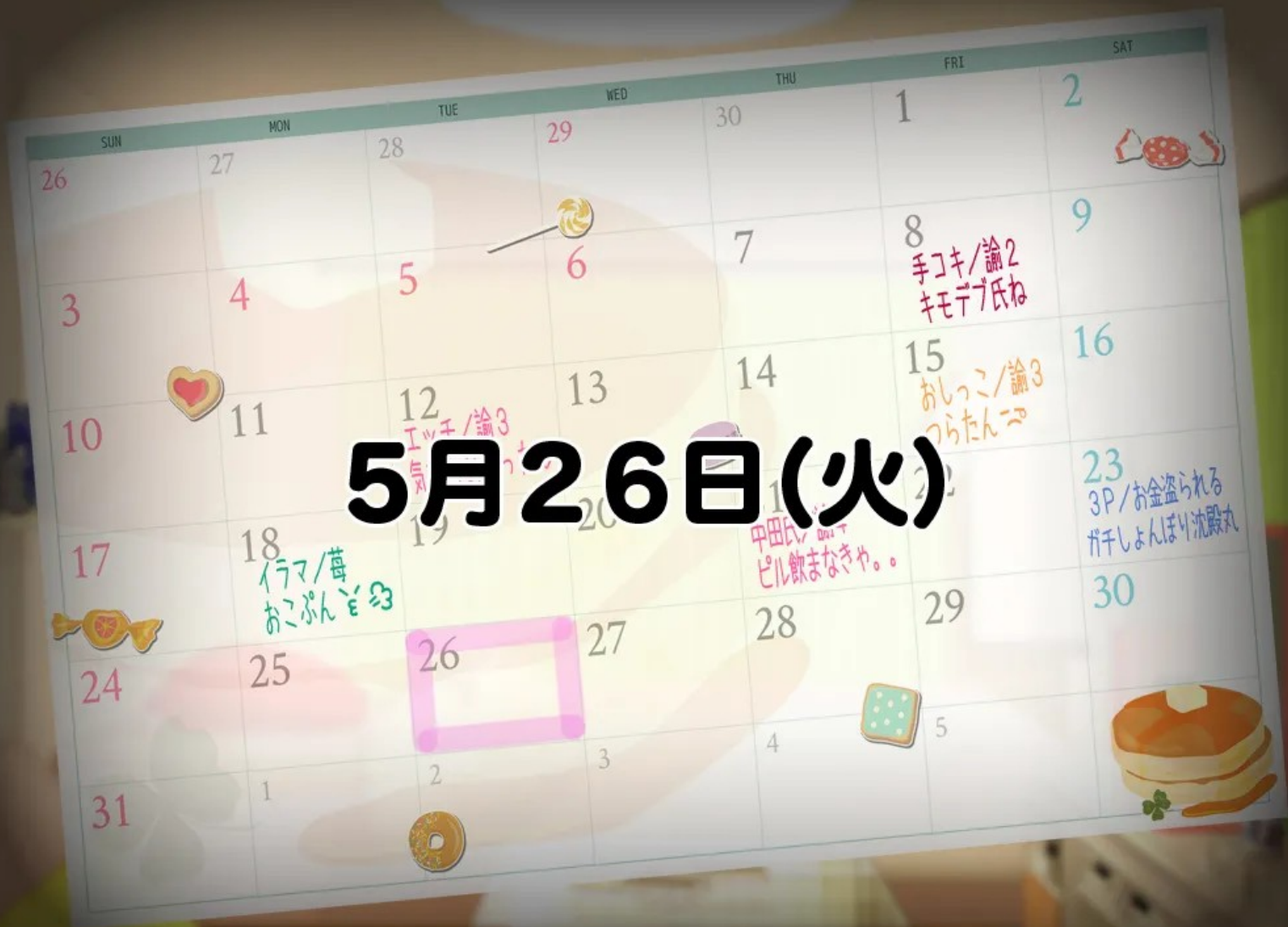
最悪――

裏切られると辛い。  
それが、好意を持った人間なら尚更だ。

精液の匂いを身にまとったまま、  
私は朝の街を、当てどなく歩いた。



5月26日(火)







ブルセラシヨップでは、件の飲尿オヤジが  
またしてもトイレに籠城していた。

好都合とばかりに、  
私はブルセラシヨップの店長に声をかける。

……今回も3万円、  
貰えるんですね？

いや、1万円

1 / 3 !?

嫌やったら  
無理にとは言わんよ

なんだそれは。腹立たい。  
この間は、私しかいないとまで言っていたのに。  
でも——背に腹は代えられない。

わかりました

私が了承すると、  
店長はユニットバスに向かって叫んだ。

お客さん！ ナユちゃんや！  
こないだの子、覚えてる？

なんだ。  
新しい娘じゃ無いのかね

お客さんの初物好きは知ってるけど、  
生で飲ませてくれる娘なんて  
なかなかおまへん。そんな代わり1万円や

うむ、まあ  
……それなら

どいつもこいつも、  
私を馬鹿にして。





私はユニットバスの中に入ると、  
先ず男の腹を蹴飛ばした。

——ドゴォッ！

はあ



男が豚みたいな声で鳴く。

き、キミ……  
一体、何を……

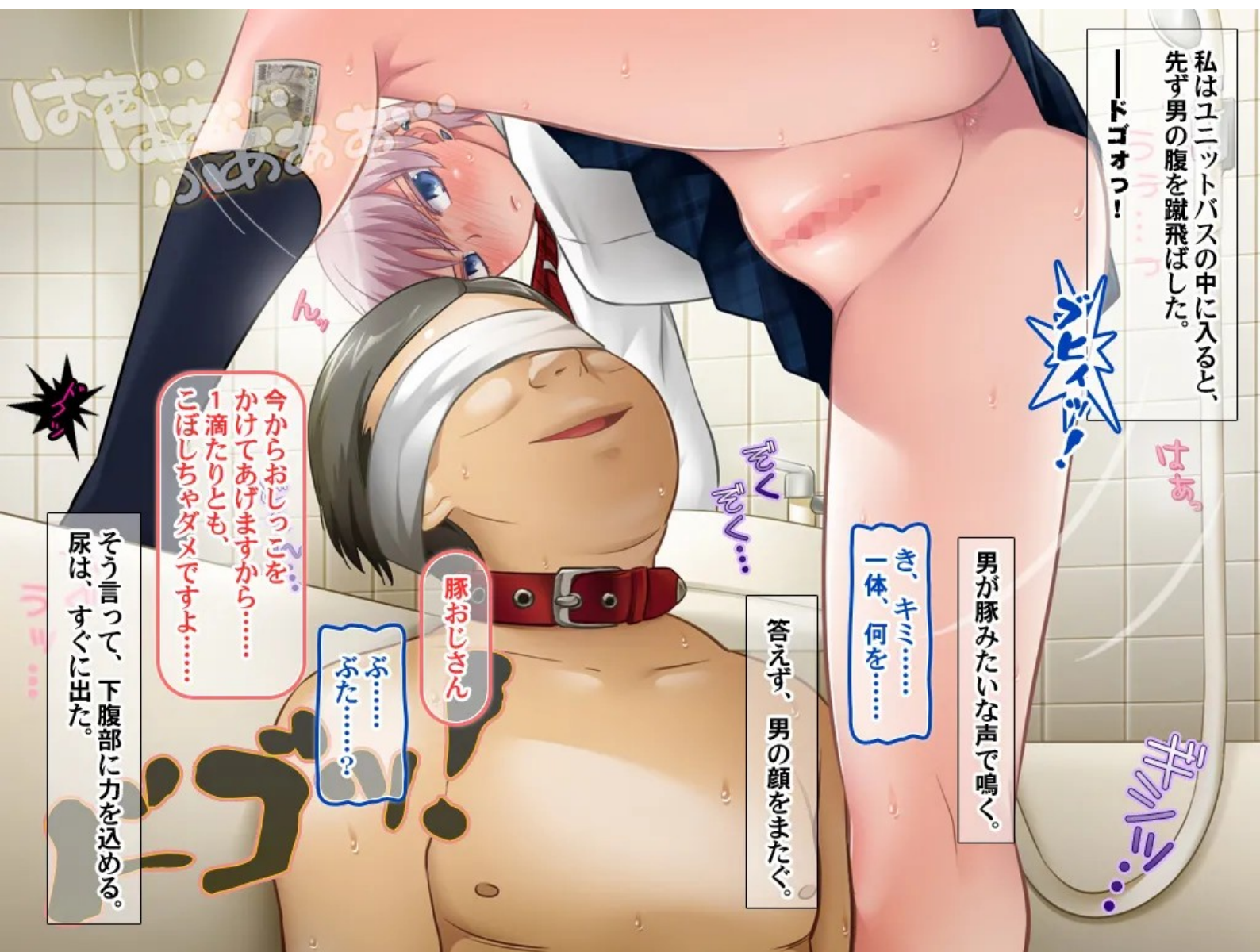
答えず、男の顔をまたぐ。

豚おじさん

ぶ……  
ぶた……？

今からおじっこそを  
かけてあげますから……  
1滴たりとも、  
こぼしちやダメですよ……

そう言って、下腹部に力を込める。  
尿は、すぐに出た。



—プシャアアアアアアアッ!!!

おお! おお! おお! ...ッ

そしてすぐに、恍惚の表情を見せる変態オヤジ。  
喉を鳴らし、私の尿を嚥下していく。  
—私は変態オヤジに、あの2人を重ねていた。

(アイツらを拘束して、跪かせて、  
おしっこをかけてる……)

そう思うと、  
少しは気が晴れるようにも感じる。

(そうだ……  
アイツらは、便器だ)

便器だから、やり口も汚い。  
あんな腐れ便器に関わってしまった己の不幸を嘆き、  
私は目の前の便器に排泄を続ける。

じゅぽぽ!

じゃつ!  
ぽおお...



尿を飲むオヤジの姿は、  
楽しそうだった。

(私にも何か、  
趣味があればいいのか)

そしたらもつとちゃんと、  
気晴らしが出来るかもしれない。

趣味になりそうなことを考える。  
私の好きなことや、ここ最近で、  
私がしていたことを、思い出そうとする。

しかし何も思い出せない。  
特にこれといったことは、何も無かった。

(あんなにたくさん、  
お金も使ってたのに……)

むしろそのお金を稼ぐために行っていた  
セックスの……援助交際の記憶だけが、  
鮮明に思い出されてしまう。

私の趣味は、援助交際なのだろうか。

(やめてよ、  
冗談じゃないッ)

だとしたらこれも、趣味になってしまふ。  
このオヤジに尿を飲まれている、変態行為が。

んあ、

はー  
はあ  
はあ

はあ

はあ

ふ……

ふ……

結局何も解決しないまま、膀胱は、空っぽになってしまっていた。

私は男のお腹をもう一度蹴飛ばす。

靴下の先が、  
尿でじわりと濡れた。

不快だ。

[illegible]

床に落ちたおしっこも、  
全部キレイに飲みきること！  
いいですねッ！！

そう言い捨てて、  
私はユニットバスの外に出た。

はあ...  
はあああ...





靴下、汚れたから  
新しいの貰います

了解、  
1000円な

そのぐらい  
サービスしてよね!!

社割は適用させてもらってますう。  
——ところでさ

突然店長が私に、  
ノートパソコンの画面を向ける。

……何ですか

これ、  
キミやんね?

……はい?



菜結子ちゃんは、  
おチンポが大好きなんだね

うん……  
好き……

中年チンポ、  
気持ち良い？

うん、うん……っ、  
おじさんの中年チンポ、  
最高だよ……っ、  
気持ち、良い……っ

菜結子ちゃんは  
中年のチンポが好きなんだ

うん、  
好き……



絶句する。

パソコンの画面には、私が映っていた。

セックスをする、私の姿が……。

でも……、  
ちよつと、やつ！  
中、中はあ……

出すよ、  
出すからね……っ

や……っ、や、や、やつ！  
いや、だめっ、だめえ……っ！  
ダメ……だからっ、や、やあつ！

抜いて……抜いて……っ！  
あ、あ、あ……っ！  
いや、いや、いやっ！  
いやあああああ……っ！



—びゅくっ！ びゅるっ！  
—びゅるうう……っ！

私が悶えている。  
私がいやらしい言葉を発している。  
私が、中出しをされている。

これは……あの、サラリーマンとのセックスだ。

ひや、ふや……っ、  
ああ、あああああ……っ

なに……どうして、  
店長がこんなの、  
持つてるの？

どうしてって……  
動画の投稿販売サイトで  
売ったって

ツ



頭の中で、パチンと何かが弾けた。

あのサラリーマンが、行為の隠し撮りをしていたのだ。  
それで全ての台点がいった。

妙に金払いが良いのも、必ず制服を着せていたのも、  
過剰に恥ずかしい言葉を喋らそうとするのも、  
『盗撮』というキーワードを通すと、全てが繋がる。

思い返せば1回目の時も2回目の時も、  
男は予め、ホテルを用意していた。

私が部屋に入った時点で既に、  
隠しカメラは設置されていたのだらう。

行為後に、先にお風呂を勧めてくれたのは、  
その隙にカメラを回収するため。

良い人だと思ったのに、信用 していたのに……

やっぱナユちゃん、ビデオOKなんやん。  
せやったらウチの自主製作にも出てえな

店長の声は、私の耳には届かない。  
ただ不快で不快で、どうしようもなかった。

突然扉が開き、ユニットバスから男が出てくる。  
私が尿を飲ませた、変態中年だ。

変態中年は、ちゃんと服を着ていた。

太った身体にフィットした、  
恐らくはオーダーメイドと思われる、品の良いスーツ。  
とても女子校生のおしっこを飲む変態には見えない。

おお、キミがナユくんかい？  
女王様キヤラも悪く無いね。  
良かったよ

内容はさておき、  
にこやかに話すその姿には清潔感さえ漂っており、  
この男が一流企業の重役だと言われたら、  
私は信じてしまうかもしれない。  
私はその、高級ポークの腹を蹴飛ばした。







男の品格はあつという間に剥がれ落ち、  
豚の面が現われる。

な、ナユちゃん!?!  
常連さんに  
手を挙げたらアカンてっ

慌てる店長を無視して、  
私は豚に向き直った。

ねえ、おじさん。  
どこでも良いから、  
私を楽しい所へ連れて行って

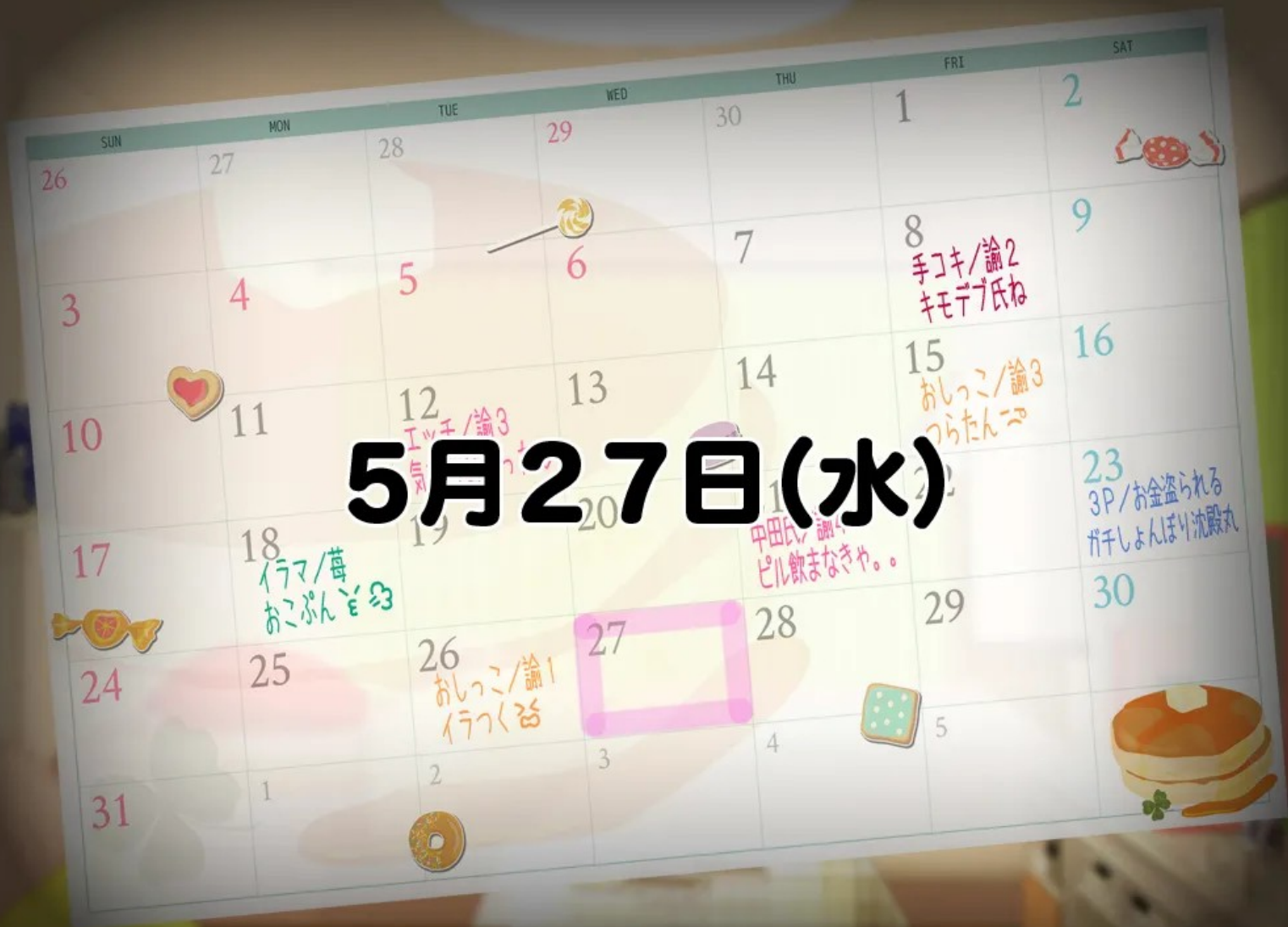
……へ?  
ど、どこでもい

同じコトを2度言うの、  
嫌いなんですけど

豚の顔が醜く歪む。  
男が黒い名刺を、  
私に手渡した。

な、なら……  
明日の夜、  
ここにきて下さい

5月27日(水)





変態豚オヤジに案内されたのは、ハプニングバーだった。

決して社会とは相容れることの出来ない欲望同士が出会い、互いを補完する場所。それがハプニングバーだという。

あなたの欲望は、  
なんですか？

ハプニングバーのマスターに、  
そう問いかけられた。  
私は答える。

とにかく気持ち良くて、  
楽しいことが、したい

マスターが私に、  
白い粉の沈んだカクテルを差し出した。  
そのカクテルを二息に飲むと――

私の身体は急に熱くなった。

どくどく...

どくどく...





誰かが私の口元に、ペニスを突き付ける。

はむ、あむ  
……ん……う

ママの♡

私は躊躇わず、それを口に含む。  
さらに大きな肉塊に、私は取り込まれる。

ちゅる♡ちゅ  
ちゅ、ちゅ、ちゅ  
ちゅるう、ちゅ、ちゅ  
ちゅうううう……♡  
♡

ちゅる♡ちゅ  
ちゅ、ちゅ、ちゅ  
ちゅるう、ちゅ、ちゅ  
ちゅうううう……♡  
♡

ペニスは甘かった。  
まるでアイスキャンディーかなにかのよう。

はむ ♥ んび……♥ ん、んうううう — っ  
もっ、おっ、ん — っ、ん、ん ♥ んびう っ ♥

あふ  
周りを見渡すと、色んな男女が視界に飛び込んで来る。  
すぐ隣のソファアールでは、チャイナドレスを着た女性が、  
男と交わっている。

(ああ……)

ぞく♡  
ぞく♡

女性が――  
男を絞っているようにも見えた。  
女性が腰を揺らすと、その度に  
男が悶えるような声を上げる。  
私達は、1つなのだ。  
私はあの女性であり、  
あの女性もまた私。

















チュパッ  
スプッ  
ぢゅぽッ

- セーヌカミ、中、(露出の)
- ふっ♡♡♡ 杏♡♡♡
- 生々ハズ、赤だ赤だっ♡♡♡

はあああ……♡

ビュッ！  
びゅるうう！  
びゅくうう！  
びゅくうう！  
びゅくうう！

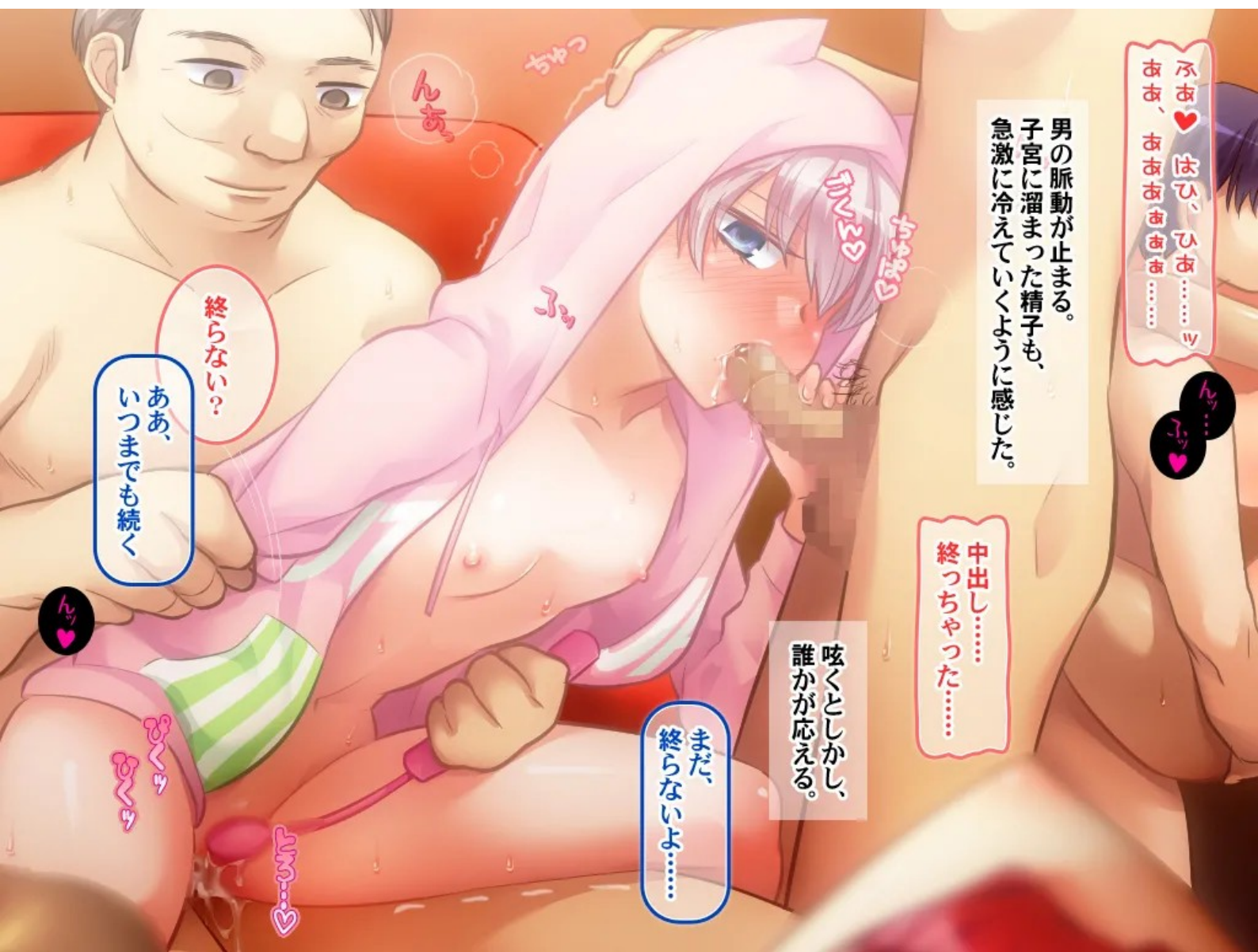
男のペニスの脈動を、  
私は臆いっぱいに感じた。  
熱が流れ込んでくる。  
その熱に、下腹部が押し上げられる。

ふあふあふあ……♡♡♡  
あ、あ♡♡♡ あああ♡♡♡

は……♡♡♡  
——びゅるうう！  
——びゅくッ！ びゅくうッ！

チュパッ  
スプッ  
ぢゅぽッ





男の脈動が止まる。  
子宮に溜まった精子も、  
急激に冷えていくように感じた。

ふあ♡ はひ、ひあ……ッ  
ああ、あああああ……

中出し……  
終っちゃった……

呟くとしかし、  
誰かが応える。

まだ、  
終わらないよ……

終わらない？

ああ、  
いつまでも続く

んあ

ちゅっ

ごっ♡  
びゅん

ふっ

びゅん♡  
びゅん♡

びゅん♡

んっ♡  
ふっ♡

んっ♡

ふー♡

じゃあもつと……  
おまんこ出来るっ

あふ♡

もちゅん

じゅぽん

おっぱい♡  
おまんこ♡

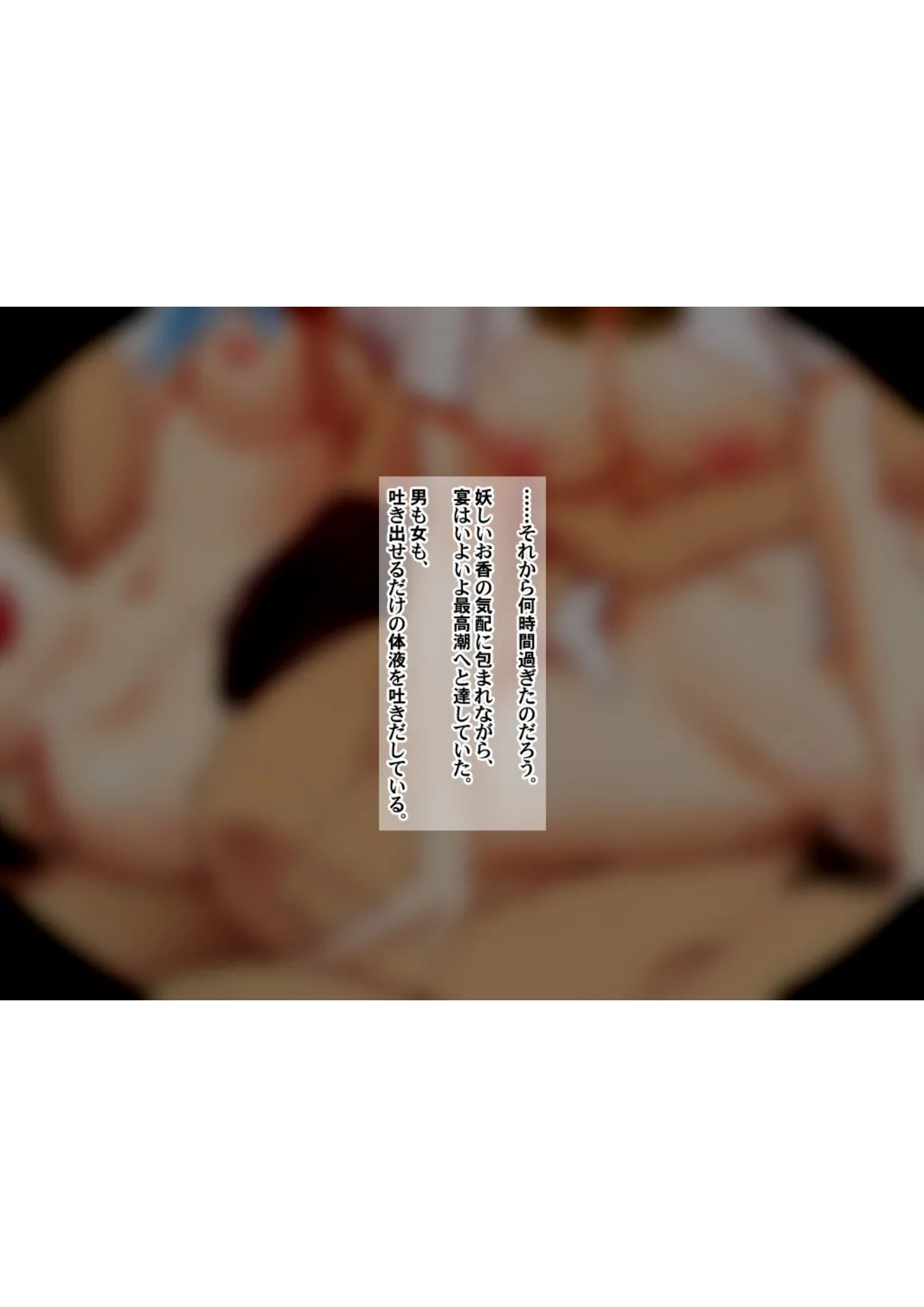
おまんこ♡

はあああ……♡

はー……♡♡♡

別の誰かが呟く。  
それを証明するように、  
スティックパイプは  
いつまでも震え続けていた。





……それから何時間過ぎたのだろう。

妖しいお香の気配に包まれながら、  
宴はいよいよ最高潮へと達していた。

男も女も、  
吐き出せるだけの体液を吐きだしている。



あふ  
しゅごう……♡♡♡  
身体中、ドロドロお……

髪の毛や、パーカーにも精液が付着していた。  
でも不快感はない。  
ここにいるみんなと、より一層深く繋がれた——  
そんな充足感が、私の胸を支配していた。

（ピル、  
持っててよかった……）

持っていたからこそ、こんなにもいっぱい、  
中出しをしてもらえたのだ。  
盗撮男に無理矢理中出しされたのがきっかけで  
私は追加のピルを入手していた。

（あの盗撮男に、  
感謝しないと……）



男女

あの2人がいなければ、  
こんな場所に来ることも無かった。

そう考えると、私の身に悪いコトなんて、何一つ起っていなかったということになる。

（ならまあ  
……いいか）

(感謝……)

その一言で、何もかもが浄化されていく。気晴らしとか、そんな些細なことは最早どうでも良かった。私はもっと大きなものを手に入れた。

（この素晴らしい場所を、  
私は一生忘れない）

そう、全てこれで良かったのだ。

その誓いを胸に刻むべく、私は大きく息を吸い込んだ。――焦げた匂いが、微かに漂っている。

はー♡♡♡♡♡

目を閉じると、匂いはますます濃くなっていった。

パチパチと、手を叩く様な音が聞こえてくる。

私の『氣付き』を、誰かが祝福してくれている様だった。

——火事だッ！

誰かが叫ぶ。

そう、私の身体はまるで火事のように昇ぶって——

——まさか！

目を覚ませ！  
火が出てんだよ！

——え？



逃げる！  
死ぬぞ！！

え……？  
え、え……え？

ドタドタと、慌ただしげな足音が響く。

ボサッとしてんな！  
走れ！  
階段だよ階段！

でも、服が……

服なんて良い！

誰かが私の身体を掴んだ。  
転がされるようにして、階段を駆け下りる。  
私は裸のまま、店の外へと放り出された。



ビルが——燃えていた。

真っ黒に塗りつぶされた窓は割れて、そこからさらに黒い煙が上がっている。拍手どころではない炸裂音が響く。赤い炎が、私の身体を照らしている。

あ、あ……  
ああ、ああああああ……

熱い。

精液の熱とは比べものにならない程の巨大なエネルギーが、私の身体を照りつける。

1つになった筈の肉塊は、散り散りになってる。炎が、私に気付きを与えてくれた体液を乾かしていく。急激に乾いた精液は肌に張り付き、凄まじい臭気を放ち始めていた。





（なにしてんだろ……）

薄いパーカーだけを羽織り、身体中に乾いた精液を  
たっぷりと付着させた姿で、私は火事を、観ている。

私の荷物は、全部燃えてしまっているだろう。

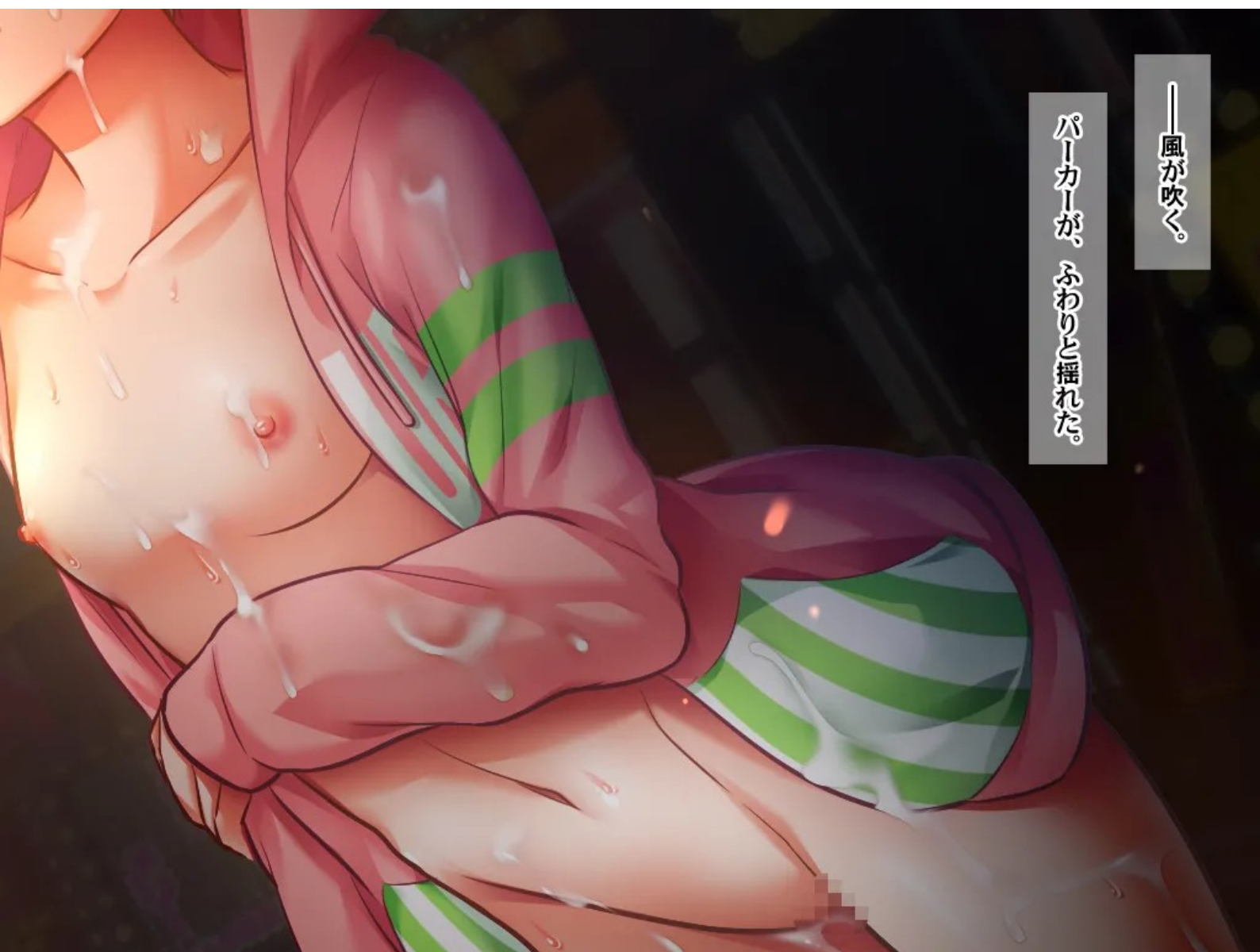
苦勞して手に入れたキャミソールも、ホットパンツも、  
全てが灰と化してしまう。

（こんなところに、  
来るんじゃないかった……）

後悔が、ざわりと湧いた。  
こんな街中で、裸で放り出されて、私は――

——風が吹く。

パーカーが、ふわりと揺れた。





（あ……違う。  
私は、裸じゃない）

薄いけれど、パーカーを羽織っている。

（これも、  
私が手に入れたもの……）

左耳のピアスだって、  
私が自分で手に入れた。

（残るものだって、  
あるんだ……）

では私が先ほど得た『気づき』は。

（『気づき』は、  
焼けるものじゃない）

その証拠に、まだ私の胸に残っている。  
（ならまあ……いいか）

この火事すら、良かったと思える日が来る。  
きっと、来るのだ。



ふふ……

いつの間にか、私は笑みをこぼしていた。  
『感謝』  
この言葉を忘れてはいけない。

感謝

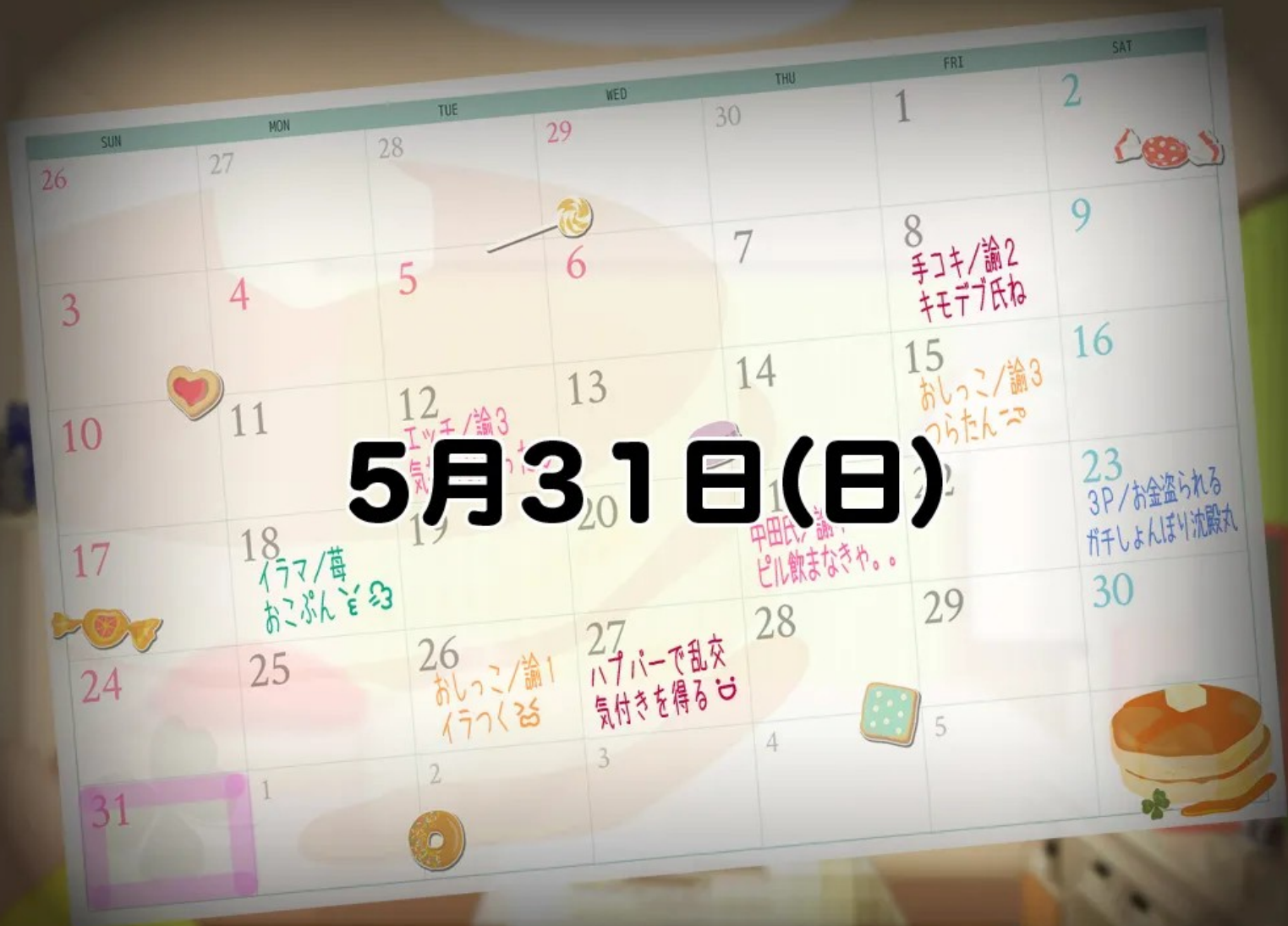
口にすると、何もかもが浄化される。  
この炎は浄化の炎だ。  
私から不要なものを、  
引き剥がしてくれたのだ。

もっと燃えたらいい……  
燃えちゃえ……  
全部、燃えちゃえ……!!

ようやく遠くの方で、  
消防車のサイレンが聞こえ始めた。  
まだ暫く、この炎は消えそうに無かった。



5月31日(日)





最近——オリモノが増えた。



『運命』とかそういうフレーズを信じる程子供じゃないけど、それは間違い無く運命だった。

私の視線の先にはショーウィンド。  
赤いピアスが飾られていた。

私の左耳には青いピアスがはめられているが、  
右耳には何もつけていない。

やはり片耳だけだと、どうしてもバランスが悪い。  
それに赤。

私に『気付き』を与えてくれた、  
ハブニングバーの一室も、浄化の炎も赤かった。



左耳に青いピアスで、右耳には赤いピアスなんて、オッドアイみたいで格好いいかもしれない。

欲しい

でも私は、お金を持っていない。  
だから私はバイトをすることにする。  
テレホンクラブに電話をかけると、  
ホ別論吉2で話がまとまった。





ふあ♡ あ……♡  
あ、あ……♡ うん♡♡

電話をかけてから1時間もしない内に、私はホテルで男と交わっていた。

男はお金を先に払ってくれなかった。ゴムも——つけていない。

(でもまあいっか……  
最後に外出し、してもらえば)

私は諦め、男の腰使いに身を委ねた。

うん、まあ——悪く無い。  
むしろ気持ちの良い部類のペニスだ。

ふあ、あ、や……♡  
あ……♡♡ あ、あ……♡

じゅぽ♡  
じゅぽ♡

ぢゅぽ♡♡

男がペニスを、根本までねじ込んできた。  
男の陰毛が尻タブをくすぐる。  
膣口が、メキユリと大きく広がった。

ちよ♡  
ぽあ♡





出る...

男が小さくうめく。

え...? や、ちょ、ちよつと...ツ、ん、 ゴム...つけてないなら、外に出して...

だめッ、やだ...ツ、中、中は...ツ、 あ、ああ...ツ、ああ、あああああ——ッ

しかし男は、止まりそうにない。

(もう、いいか...。 ピルなら飲んでるし...)

私はまた諦める。

ばんばん

ばんばん

おぼお!





ぱんっ  
ぱんっ

びゅっ!  
びゅっ!

あふ

ふいふい... ああ...  
びゅっ!

はー!  
はー!  
♡♡

—びゅるうッ!  
—びゅくッ!  
—どびゅううッ!—!  
男の精液が、  
私の中に流れ込んでくる。

うわ、いっぱい出てる...  
躊躇、無いなあ...

諦めていたとはいえ、驚いてしまう。  
この人は、実はヤバイ人なのかも知れない。

びゅるるるッ!  
びゅっ!

びゅるるるッ!  
びゅっ!

んっ♡



はーい  
(でもまあ、  
はいいいけどね……)

悪いコトなんて、無いのだし。

ゴムを着けた方が良く、  
外に出した方が良くなんて固定観念も、  
その内消えてしまうだろう。  
そうだったらもう本当に、  
私は1つの肉塊になれる。

んーッ♡ふあ、あッ♡  
ああ、あああああ……ッ♡

びくっ  
びくっ

びくっ  
びくっ  
びくっ

くぼ…  
どろおあ♪

Beve☆  
Beve☆

ん♡





あぁ、ふぁ、はぁ……ッ  
ふぁぁぁぁぁ……

ネロリとした感触が、  
下腹部に伝わってきた。  
どうやら射精が終わったらしい。

じゃあ、  
2万円……下さい

そう言うと、  
男はじろりと私を睨んできた。

手を伸ばし、私を仰向けに転がす。

ふー……  
ふうふう……

びんぽんッ♡  
とろ♡ぽろ♡

—

ぐちゃ  
にちゃっ  
どろ……

ふぁ……  
ふぁ……



無言で、私に覆い被さってくる。

そう言えば私は、会ってからほとんどこの男の声を聞いていない。

冷たい視線で、私をじっと睨み続ける。

（本当にヤバイ人だったら、  
どうしよう——）

ここはホテルの部屋の中。  
声を上げて、  
きつとすぐには誰も来てくれない。

鈍りきった恐怖心が、急に目を覚ます。

それでも叫ぶしかない  
開きかけたその口に……

きゃーッ

ひ

ふーッ  
うーッ

はーッ  
はーッ







ドロ...

ドロ...

ぬ  
ヌルッ

ううう...

び...

は  
は...

ふあっ  
はあっ  
ぐすっ...

男が私の顔のすぐそばに立つ  
愛液でぬらぬら光るペニスを、  
私の顔の前に近づけてくる。  
それから狙いを定めるようにして、  
尿道口を私の口に向けた  
恐怖心に、嫌な予感が加わる。

ふー...  
あぐ...

あ、あの...  
お金、ありがとうございます...  
2万円、確かに頂きましたから...





じよまぼ!

かえッ  
うぱッ

びんご  
はなッ

ひんご  
んごッ!  
んごッ!  
んごッ!

(嘘……ッ!?)  
嘘、うそ、うそお……)

亀頭の先から、  
黄色い体液が放出された。

びんご  
やっ!  
まおあッ!

それは尿だった。  
中年男性の汚いおしっこが、  
私の顔めがけて飛散していた。

んご、んご、んごッ!  
んごッ!  
んごッ!  
んごッ!  
んごッ!

口を閉じようとするが、  
刺さったお札のせいで  
閉じることが出来ない。  
お札と唇の隙間から、  
尿が入り込んでくる。







(悪いコトなんて何も無い、  
悪いコトなんて、何も無い……)

念仏のように、  
私は心の中でそう唱え続けた。

——本当に？

この惨状を、あとから  
取り返すことは出来るのか？

うぐ、うぐ……  
おが、おが……

はな……

苦い尿が口内を満たしていく。  
我慢出来ずに嚥下する。

はな……はな……  
はな……はな……

不味い。  
自分の息が、尿臭い。

いや、いや、いや……  
いや、いやああああ……



うえ……ッ  
うえええええ……ッ

男の小便は、  
髪やパーカーにもしみ込んでいた。  
この汚れは、ちゃんと取れるだろうか。  
精液と同じやり方で、大丈夫だろうか。

ぐちゅお……

……ふう

男がペニスを振る。

ぐ……

尿の飛沫が、私の顔で跳ねた。  
尿のキレが悪いのだろう。  
飛沫が、いつまでもいつまでも  
私の顔に降り注いでいた。



男から逃げるようにして、  
ショッピングモールへと向かう。

しかし目的のショールームの前に来て、  
私は愕然としてしまう。



ピアスは、無くなっていた。

酷い虚無感に襲われてしまう。

おしっこまで飲んで、お金を用意したのに。



う……

感謝

(悪いコトなんて何も無い……)

心の中で唱える。  
でも余り効果は無い。

でも、身体に残った、  
気持ちの悪い尿の感触は、  
なかなか浄化されなかった。

代わりにお腹が——  
ズキンと痛んだ気がした。





奥付  
原画:niwacho  
製作:劇團近未来  
<http://kinmirai.dojin.com/>

# 売春リアル

B A I S Y U N - R E A L

































はあ...  
はあ...  
はあ...

あ...  
あ...

あ...  
あ...  
あ...

あ...  
あ...

あ...  
あ...

あ...  
あ...





















































ふー♡

あゝ

はー♡

はあああ...♡

あふ♡

はー...♡♡

♡♡♡♡♡

はあ... はあ...  
ふあああ...

わあ

びくッ  
びくッ





































どろ...  
べとあ...

ふー...  
あふ...

はー...  
はあああ...

はー...  
はー...



ふー...  
あふ...  
...

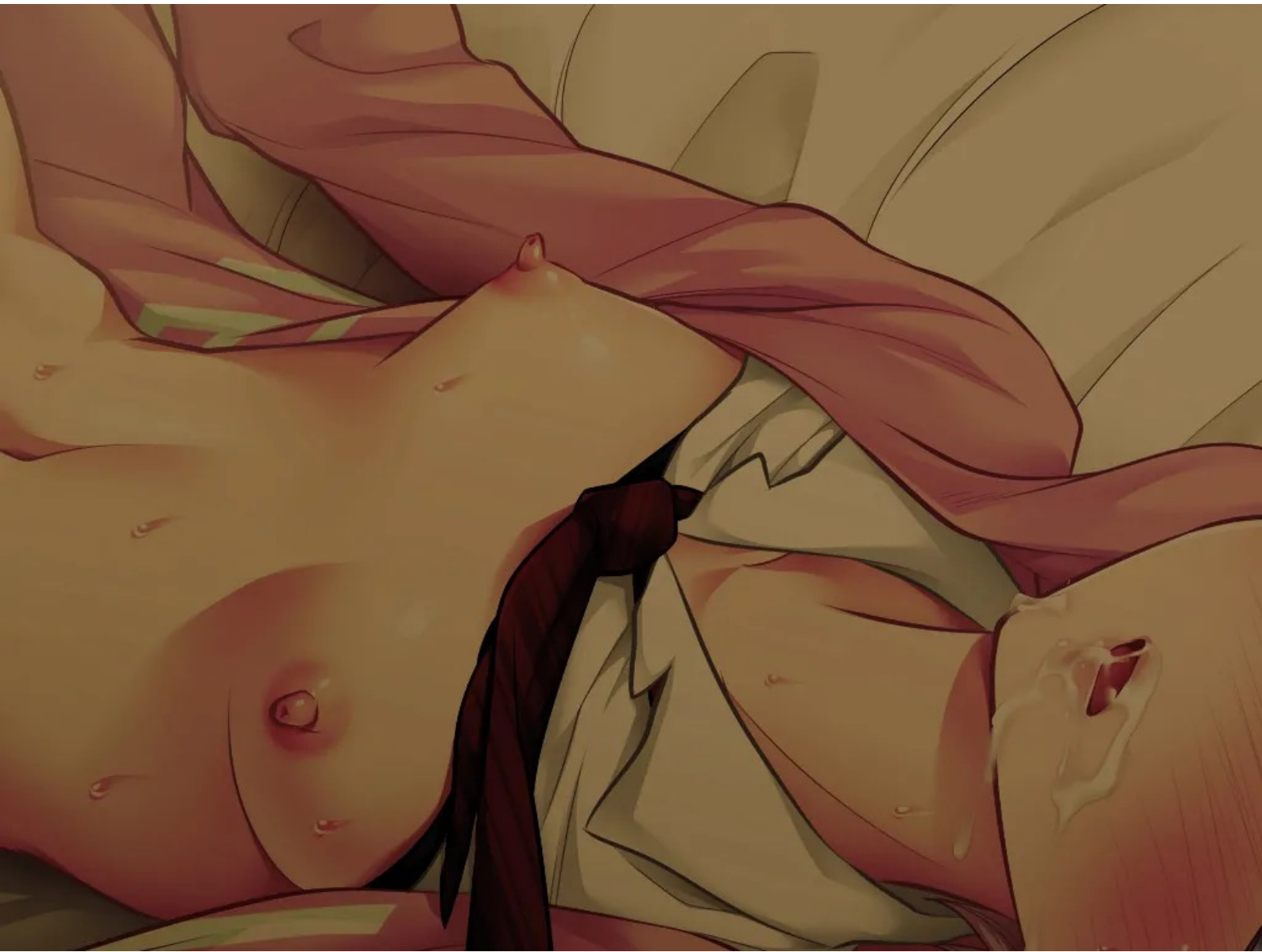
はー...ッ  
はあああ...ッ

は  
ふ...  
う...  
...

はあ...  
ああ...  
ああ...  
ああ...























はあ...  
はああ...

わぁん♡

わぁん♡























はーん♡

はーん♡

はーん♡

ふー…  
ふー…

あふ…

はー…  
はあはあ…♡♡♡



















































ちゅぽんッ

ぐちょッ  
ぐりッ!  
ちゅぽ!

じゅぽ...

じゅぽ♡

はあぁぁ...ッ

じゅぽ♡

じゅぽ♡

じゅぽ

あーっ  
あーっ

はーっ  
はーっ























































ふー...  
あふ...

は  
ふ...  
う...

はー...ッ  
はあああ...ッ

はあ...  
はあ...  
はあああ...













































あー

ぱんぱん

あー...

ん

あー

ぱんぱん

ん

あー...  
あー...

ズパッ  
デユプウ!

びくびく



















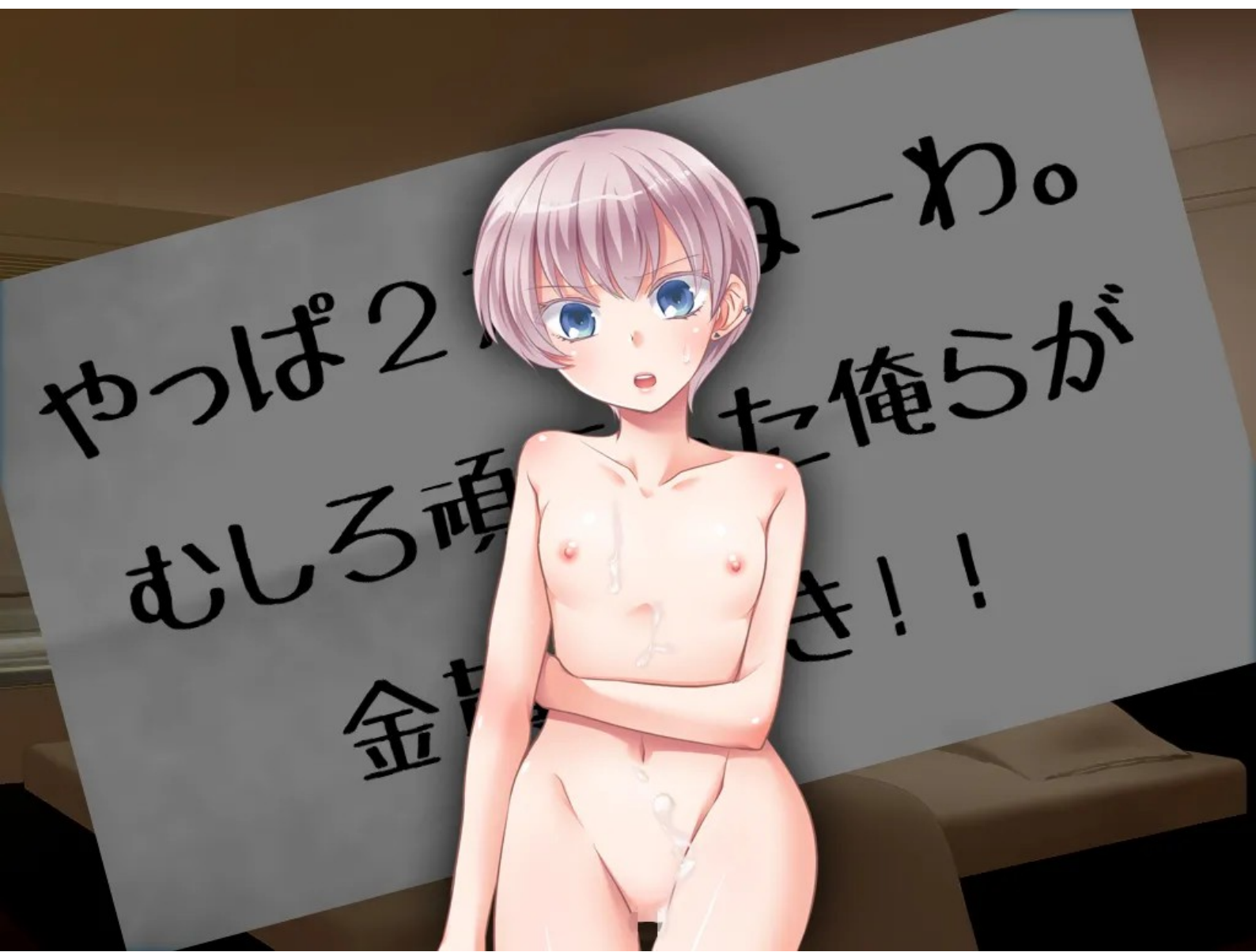












やっぱ2人じゃ無理ーわ。  
むしろ頑固な俺らが  
金持ちを助けるべき！！



































菜結子ちゃんは、  
おチンポが大好きなんだね

うん……  
好き……

中年チンポ、  
気持ち良い？

うん、うん……っ、  
おじさんの中年チンポ、  
最高だよ……っ、  
気持ち、良い……っ

菜結子ちゃんは  
中年のチンポが好きなんだ

うん、  
好き……









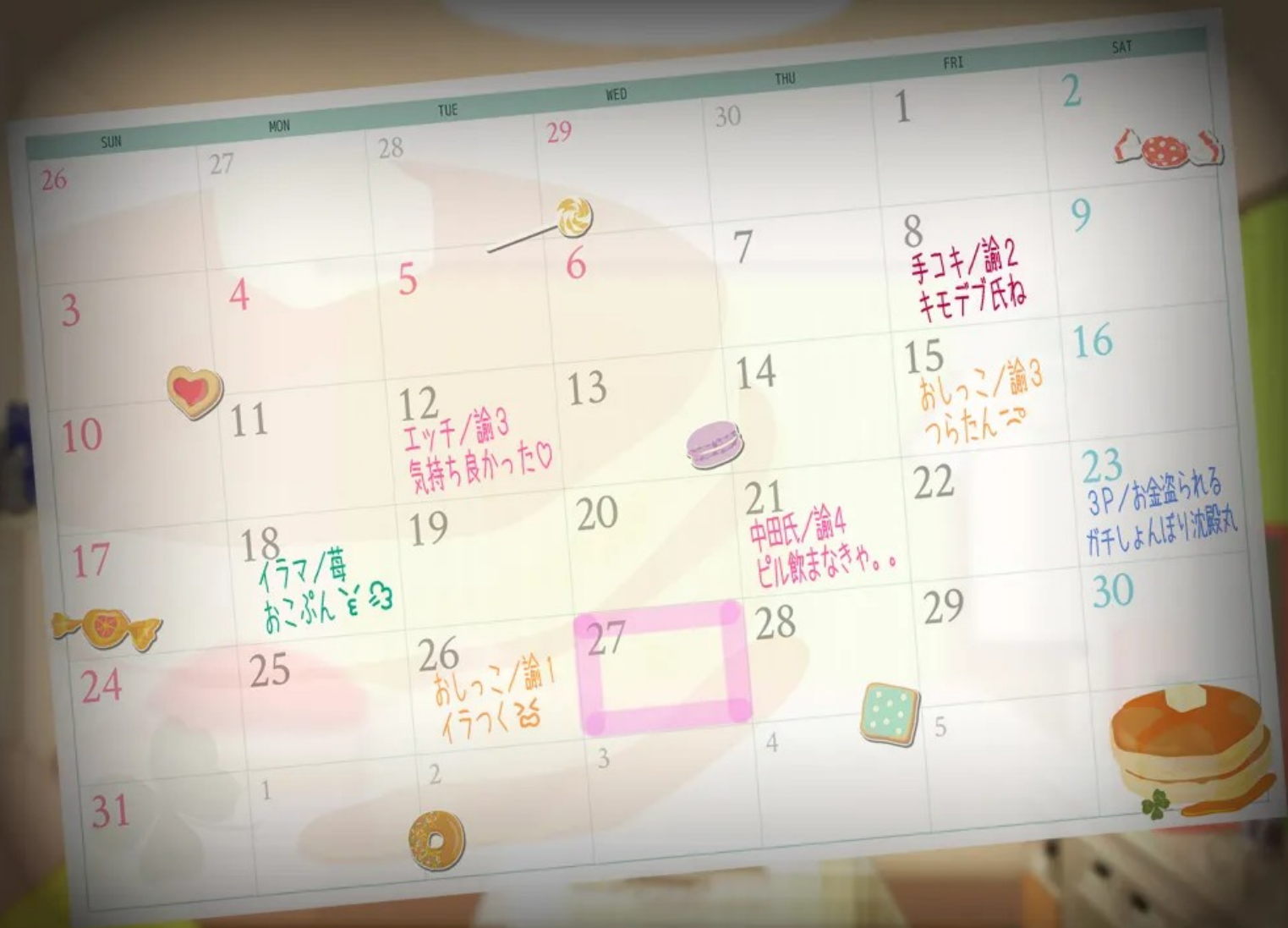






























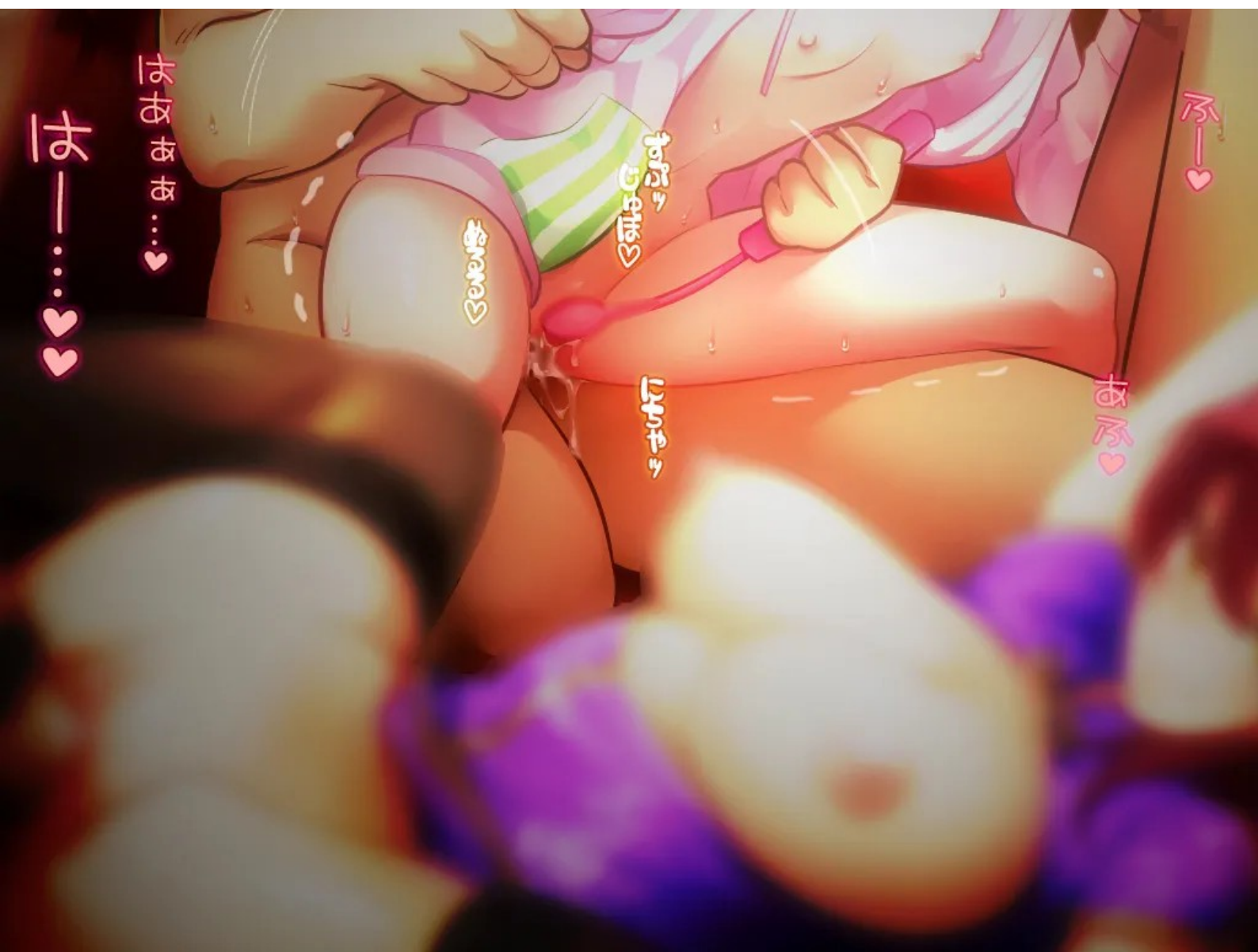












ふー♡

あふ♡

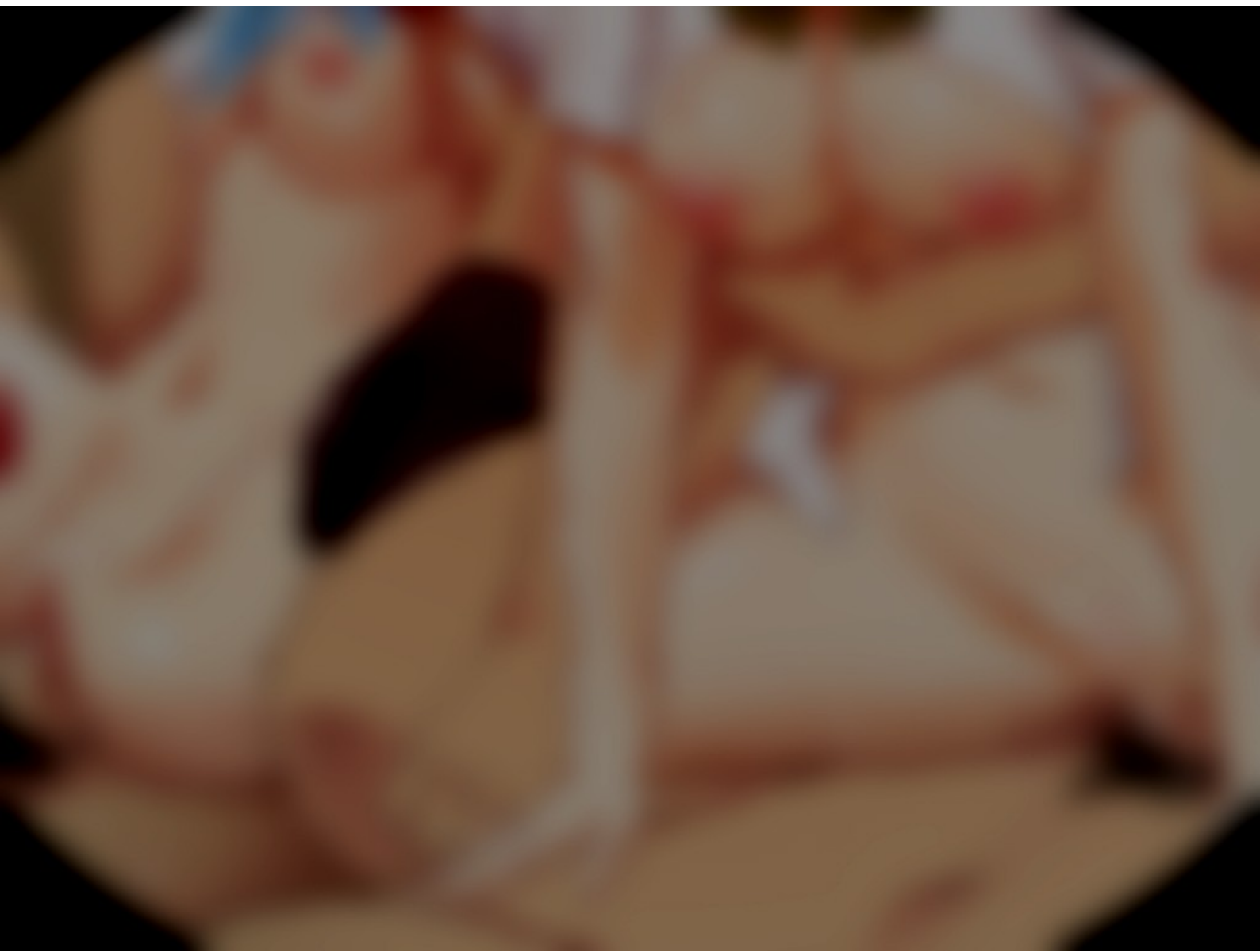
あふ♡

あふ♡

あふ♡

あふ♡

あふ♡

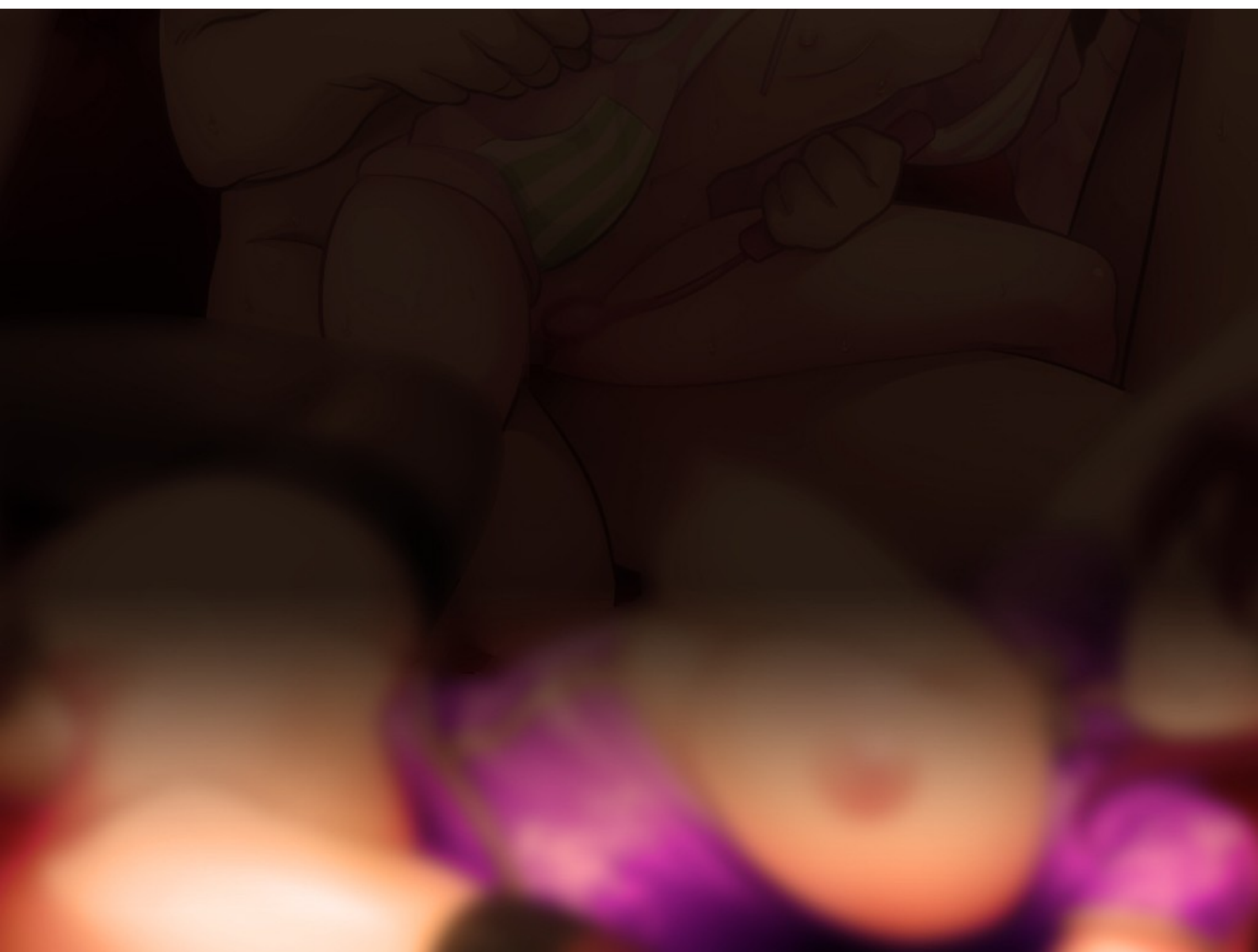




















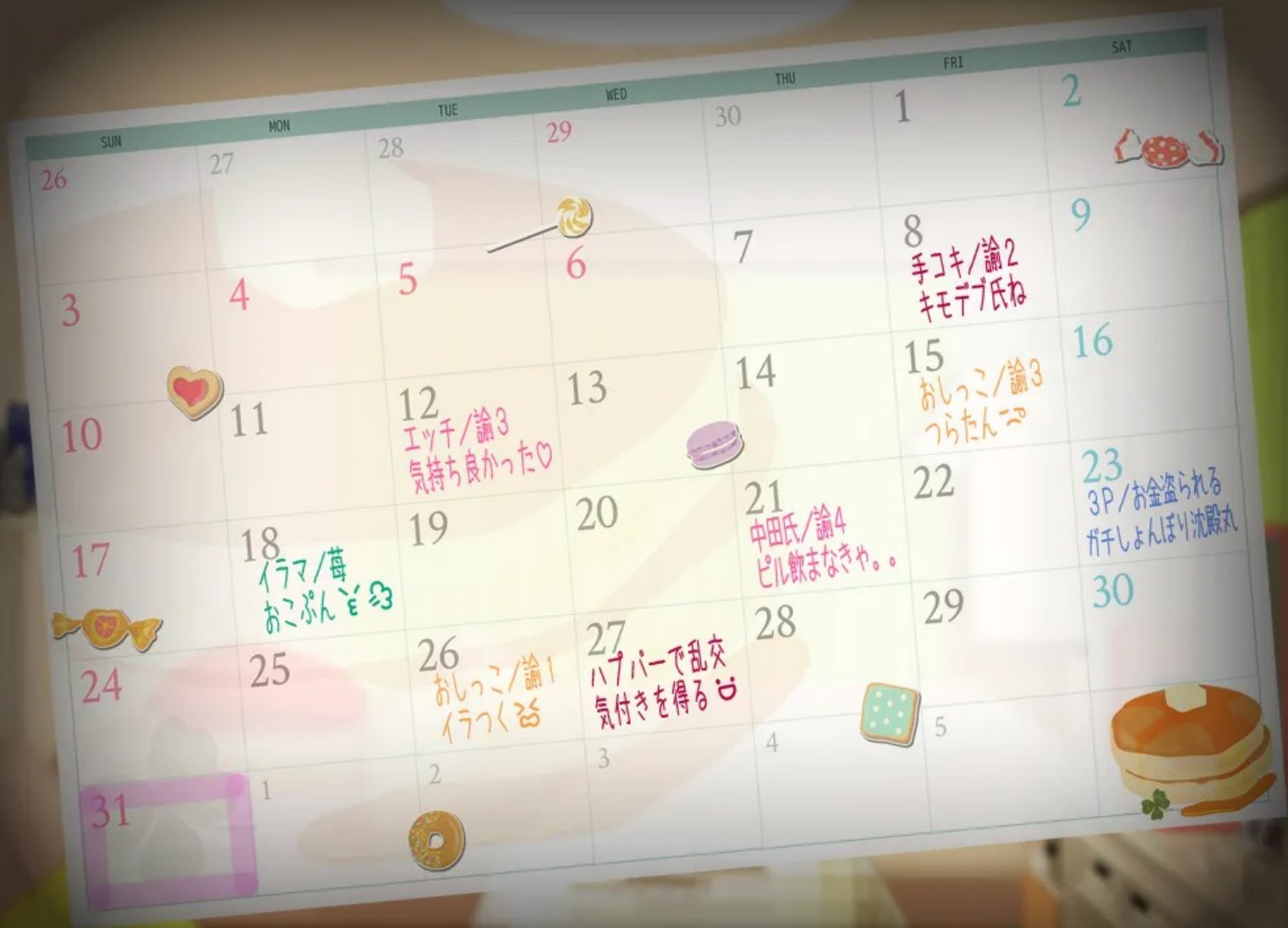


























































アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ

アハハハ







